

あなたのいちばんに。



ふくおかフィナンシャルグループ

2024年度 会社説明会

2024年5月28日

Part I 経営戦略

● 2023年度の連結決算概要	P5
● 第7次中期経営計画の進捗状況	P6
● 2024年度の連結業績予想	P7
● 2024年度の連結業績予想（コア業務純益の増減要因）	P8
● 資本政策・株主還元	P9
● FFGの持続的な成長 5つのポイント	P10
I.みんなの銀行①	P11
I.みんなの銀行②	P12
I.【参考】みんなの銀行	P13
II.既存ビジネスモデルの変革（DX投資）	P14
II.九州経済の成長	P15
III.九州経済の成長_シリコンアイランド九州の実現に向けて	P16
IV.貯蓄から投資へ_資産運用ビジネス	P17
V.国内金利の上昇_資金利益への影響	P18
● 持続的な利益成長/ROE向上に向けて	P19
● 【参考】ストラクチャードファイナンス/多様化投資	P20

Part II 決算・業績予想（参考資料）

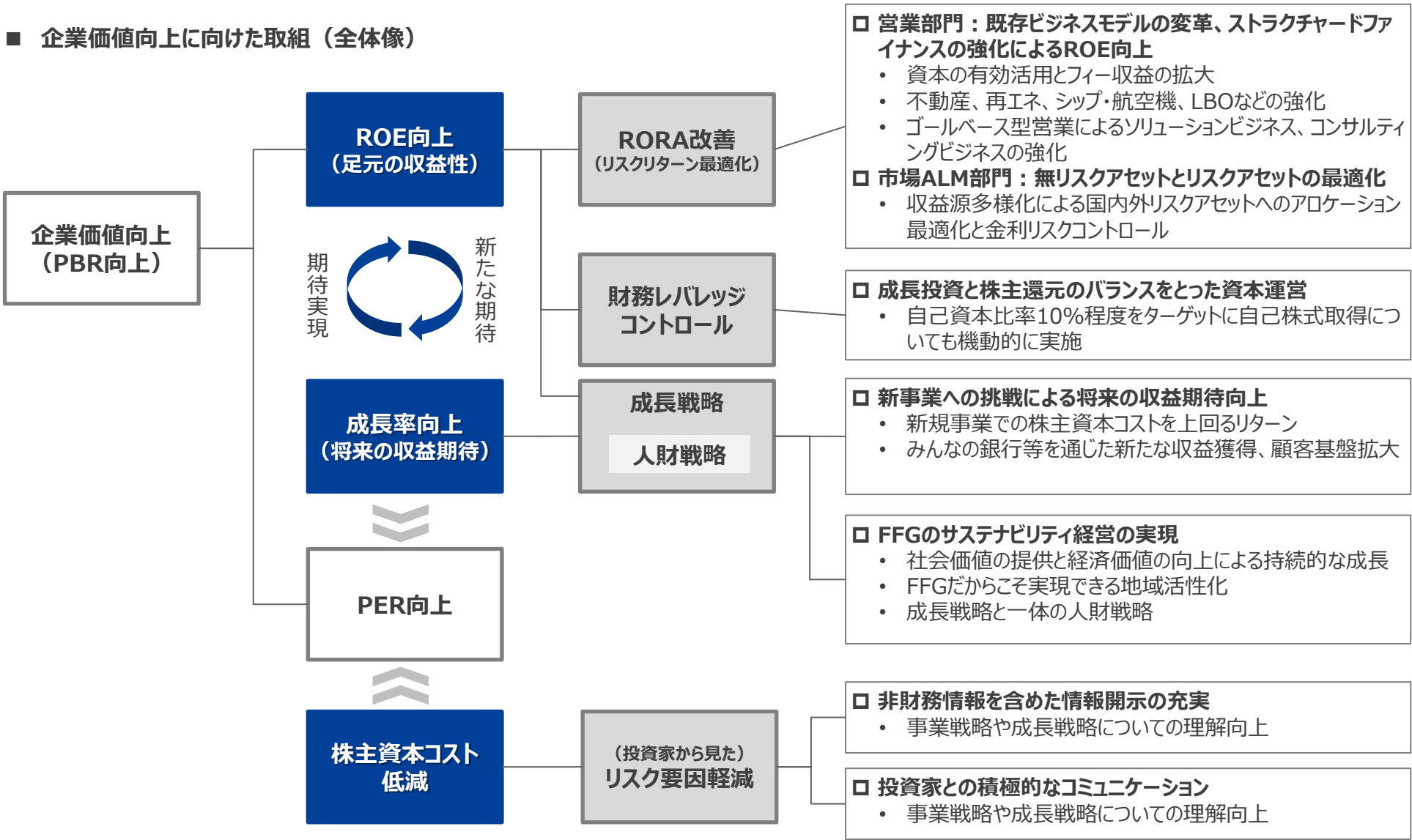
● 損益サマリー（銀行合算の内訳）	P22
● トップライン（連結コア業務純益）	P23
● ボトムライン（連結純利益）	P24
● 資金利益（銀行合算）	P25
● 非資金利益（除く債券損益）	P26
● 連結経費	P27
● 連結信用コスト／金融再生法開示債権・貸倒引当金	P28
● 貸出金平残	P29
● 預金等（譲渡性預金含む）、預貸金の種類別構成比	P30-31
● 有価証券	P32
● みんなの銀行	P33

Part III トピックス（参考資料）

● お客さまのS X支援/FFGのSX実現	P35-36
● 金融経済教育	P37
● 人財戦略	P38-39

はじめに ～ 企業価値向上に向けた取組（ロジックツリー）

■ 企業価値向上に向けた取組（全体像）



本日のご説明	
P14	既存ビジネスモデルの変革
P15-16	九州経済の成長
P17	資産運用ビジネス
P18	国内金利の上昇
P20	ストラクチャードファイナンス/多様化投資
P9	資本政策・株主還元
P11-13	みんなの銀行
P18	国内金利の上昇
P19	持続的な利益成長/ROE向上に向けて
【非財務情報】	
P35	お客さまのSX支援
P36	FFGのSX実現
P37	金融経済教育
P38-39	人財戦略

あなたのいちばんに。



ふくおかフィナンシャルグループ

Part I 経営戦略

2023年度の連結決算概要

〔2023年度決算サマリー〕

FFG連結 (単位：億円)	2023年度	前年比	(除く福中単体影響)	2022年度
コア業務粗利益	2,507	+166	(+128)	2,340
4行合算 ※1	2,316	+151	(+113)	2,165
預貸金利息 (国内)	1,462	+64	(+33)	1,398
貸出金	1,466	① +64	(+33)	1,401
預金	▲ 4	▲ 0	(+0)	▲ 3
有価証券利息等	565	② +99	(+94)	466
非資金利益 ※2	289	▲ 12	(▲ 14)	301
うち役務取引等利益	290	③ +35	(+33)	255
連結調整・子会社等 ※2	191	+15	(+15)	176
経費	▲ 1,502	④ ▲ 96	(▲ 66)	▲ 1,406
コア業務純益	1,004	+70	(+62)	934
(除く投信解約損益)	1,033	+78	(+71)	954
経常利益	569	+69	(+93)	501
特別損益	206	+254	(+254)	▲ 48
うち負ののれん発生益	215	+215	(+215)	-
連結純利益	612	+300	(+315)	312
特殊要因 (税引後換算)	5	+266		▲ 261
当年度特殊要因	5	+5		-
前年度特殊要因	-	+261		▲ 261
連結純利益 (特殊要因除く)	607	+35		573

業績ハイライト (FFG連結)

- 本業が好調に推移し、**連結コア業務純益は前年比 + 70億円**
- 将来の収益確保やリスク抑制に向けた取組みを実施した上で、**計画どおりの当期純利益を達成** (特殊要因除く前年比 + 35億円)

〔連結コア業務純益の増減要因〕

- ① 中小企業向け貸出金の積み上げ等により、貸出金利益が増加
- ② 中長期金利の上昇を捉えた施策効果などにより、有価証券利息等が増加
- ③ 「貯蓄から投資へ」の機運高まりを活かした資産運用収益積上げにより、役務利益増加
- ④ DX関連投資、バンキングアプリやNISAの推進キャンペーン等に伴い経費増加

特殊要因 (2023年度・2022年度)

(単位：億円)	2023年度		2022年度	
	税引前	税引後	税引前	税引後
特殊要因 計	▲ 84	5	▲ 375	▲ 261
負ののれん発生益	215	215	-	-
債券ロスカット (※1)	▲ 191	▲ 134	▲ 375	▲ 261
信用コスト (既存3行・ぶくぎん保証)	▲ 94	▲ 66	-	-
福岡中央銀行	▲ 22	▲ 15	-	-
信用コストFFG基準統一	▲ 19	▲ 13	-	-
統合関連費用	▲ 3	▲ 2	-	-
福岡中央銀行下期利益 (※2)	9	5	-	-

〈将来の収益確保〉

外債ロスカット：+100億円/年
円債ロスカット：+10億円/年

〈リスクへの備え〉

今後の信用コストの増加に備え、引当基準の見直しを実施

(※1) 2022年度は外債、2023年度は円債の実現損を計上 (既存3行)

(※2) 連結調整後寄与額

※1：福岡銀行・熊本銀行・十八親和銀行・福岡中央銀行 (23下期より) ※2：グループ内取引にかかるCVA相殺後

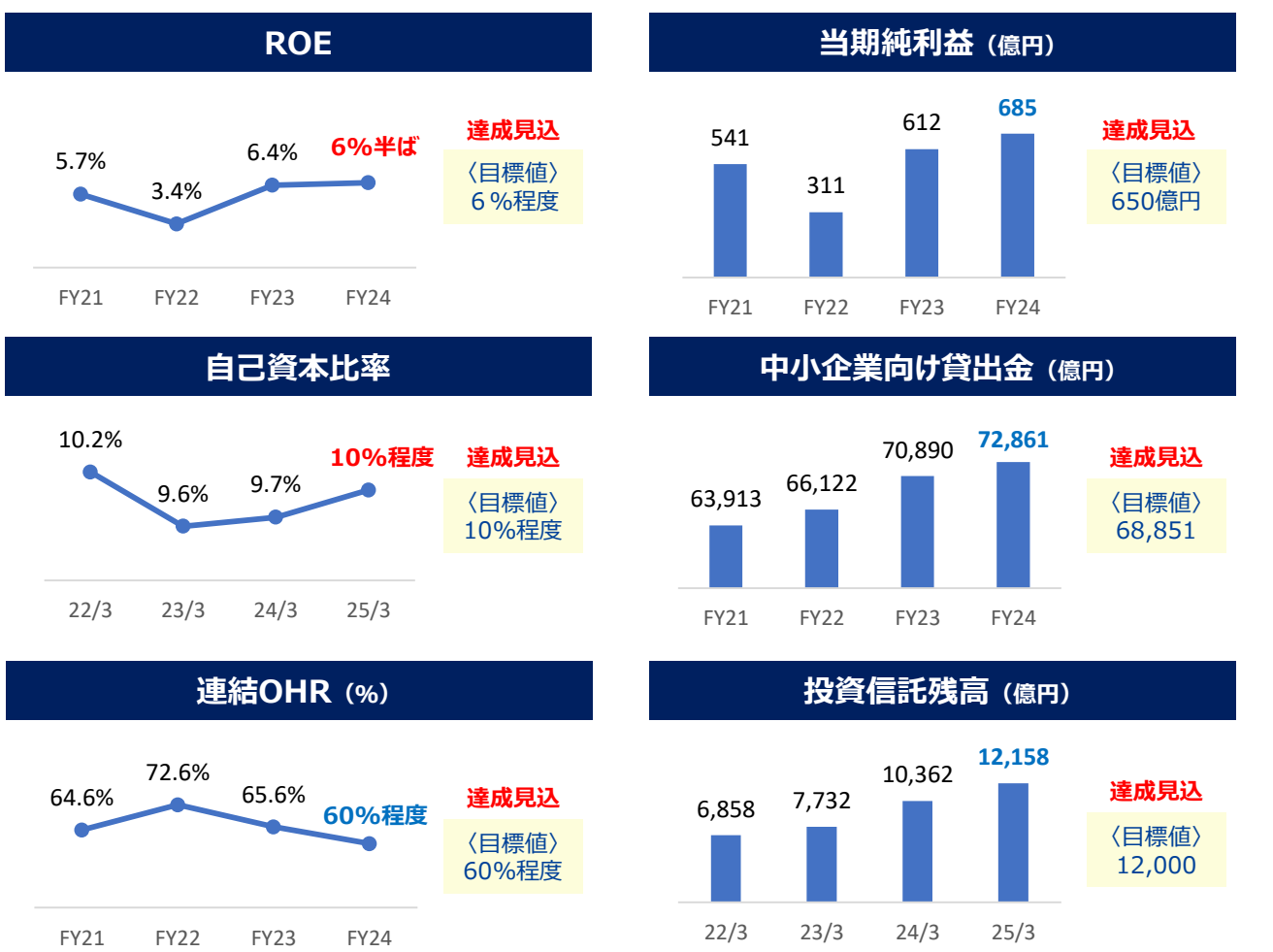
第7次中期経営計画の進捗状況

- 「既存ビジネスモデルの変革」が順調に進捗し、営業部門の業績が好調に推移する一方で、みんなの銀行へのチャレンジは収益面に課題
- ただし、ROEや当期純利益、中小企業向け貸出金残高など、第7次中期経営計画の目標経営指標は、全て達成する計画

〔主要施策の進捗と評価〕

重点取組み		FY23迄の進捗・成果
既存ビジネスモデルの変革		各施策が順調に進捗し、相乗効果が徐々に顕在化。営業部門の業績が好調に推移
	デジタル活用	個人バンキングアプリ・事業者向けポータル・SFAをリリース。ユーザー数が増加
	業務改革	- 取引のデジタルチャネルシフトが進捗 - 新たな店舗形態の展開
	営業改革	- ゴールベース型営業が全社に浸透 - 営業体制の見直し（エリア・ユニット制）
	戦略系子会社強化	- 各社ソリューション機能の拡充 - 本部・営業店・戦略系子会社の連携を強化
みんなの銀行		96万口座、ローン残高118億円、BaaS提携先10社に拡大。一方で収益面は課題
その他新事業等		FFGインダストリーズ（金属加工商社）やベンチャーデッド等の新事業を開始
福岡中央銀行との経営統合		- 経営理念・ガバナンスの統一 - 福岡銀行との連携体制を強化

〔第7次中計 目標経営指標〕



2024年度の連結業績予想

〔2024年度業績予想サマリー〕

FFG連結 (単位：億円)	2024年度 計画	前年比 (除く福中単体影響)	2023年度
コア業務粗利益	2,612	+105 (+67)	2,507
4行合算 ※1	2,418	+102 (+64)	2,316
預貸金利息（国内）	1,500 ①	+38 (+6)	1,462
貸出金	1,541	+75 (+42)	1,466
預金	▲ 41	▲37 (▲36)	▲ 4
有価証券利息等	629 ②	+64 (+58)	565
非資金利益 ※2	290	+1 (▲0)	289
うち役務取引等利益	293	+3 (+2)	290
連結調整・子会社等 ※2	193	+3 (+3)	191
経費	▲ 1,592 ③	▲90 (▲56)	▲ 1,502
コア業務純益	1,020	+16 (+11)	1,004
（除く投信解約損益）	1,040	+7 (+3)	1,033
信用コスト	▲ 119 ④	+123 (+105)	▲ 242
有価証券関係損益	80	+253 (+243)	▲ 173
経常利益	995 税後約 +50	+426 (+392)	569
特別損益	▲ 2	▲207 (▲207)	206
うち負ののれん発生益	- ⑤	▲215 (▲215)	215
連結純利益〔中計：650億円〕	685	+73 (+51)	612

業績予想の増減要因（FFG連結）

■ 連結当期純利益は、前年比+73億円、中計比+35億円を計画

〔連結コア業務純益の増減要因〕

- ① 預金金利の上昇により、調達コストが増加するが、貸出金残高の積み上げ、利回りの上昇により、預貸金利息は前年比で増加
- ② 中短期の円債投資や、米国利下げによるドル調達コストの低下により、国内部門・国際部門ともに有価証券利息は前年比で増加
- ③ ベアの実施やDX関連のシステム投資等により、前年比で経費が増加

〔その他の増減要因〕

- ④ 前年度特殊要因の信用コスト積み増し、円債ロスカット影響が剥落し、損益改善
- ⑤ 福岡中央銀行との経営統合に伴う負ののれん発生益の剥落

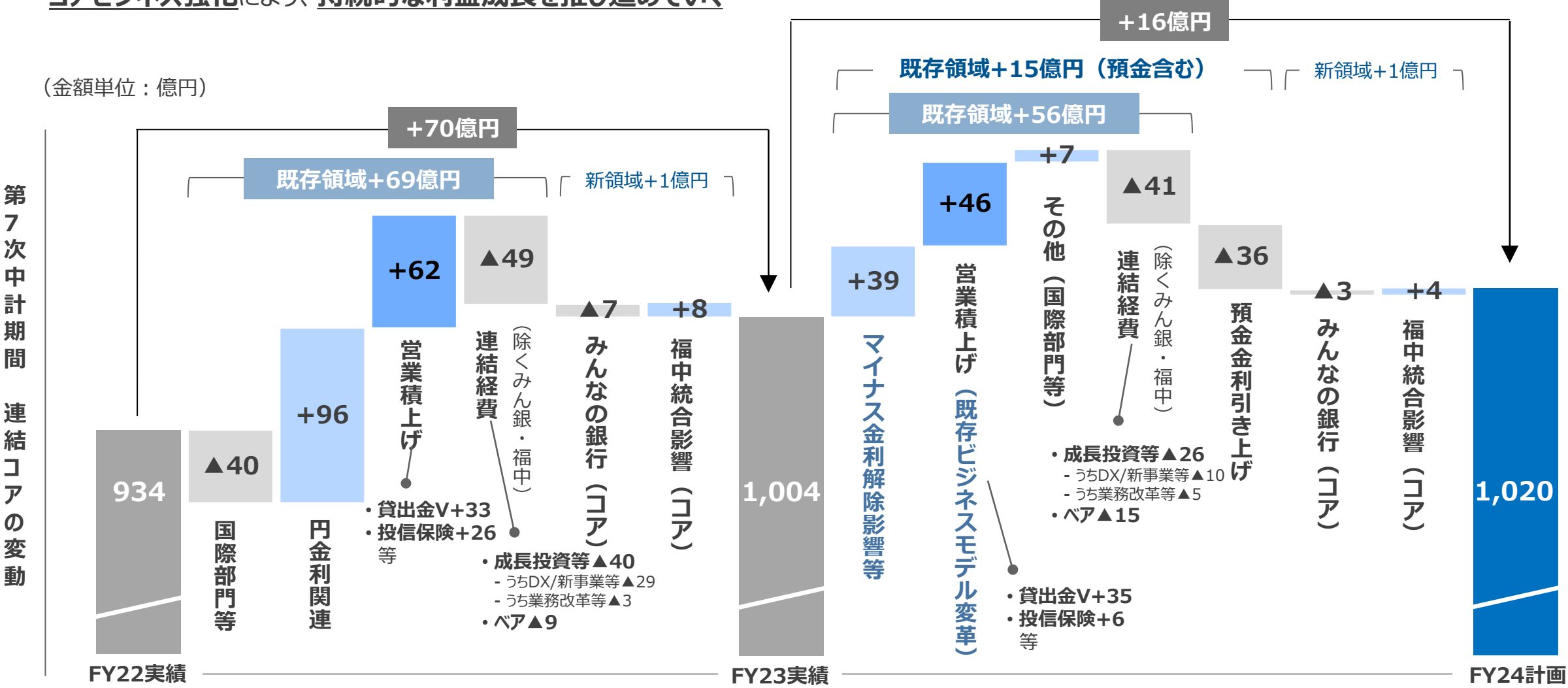
〔当初中計との増減要因〕

営業部門	➢ 資金利益は、貸出金の積み上げや利回りの上昇により上ブレ ➢ 非資金利益は計画どおり
市場・ALM	➢ 中長期金利の上昇を捉えた資金取引等により上ブレ
連結経費	➢ ベアの実施やDX投資の増加等により下ブレ
みんなの銀行	➢ ローン残高の積み上げの遅れ等により、下ブレ

※1：福岡銀行・熊本銀行・十八親和銀行・福岡中央銀行（23下期より） ※2：グループ内取引にかかるCVA相殺後

2024年度の連結業績予想（コア業務純益の増減要因）

- 第7次中計では、成長投資を継続しながら利益引上げを推進 ➡ 2024年度は、これまでの投資効果や円金利上昇メリットを取り込み
ー コアビジネス強化により、持続的な利益成長を推し進めていく



資本政策・株主還元

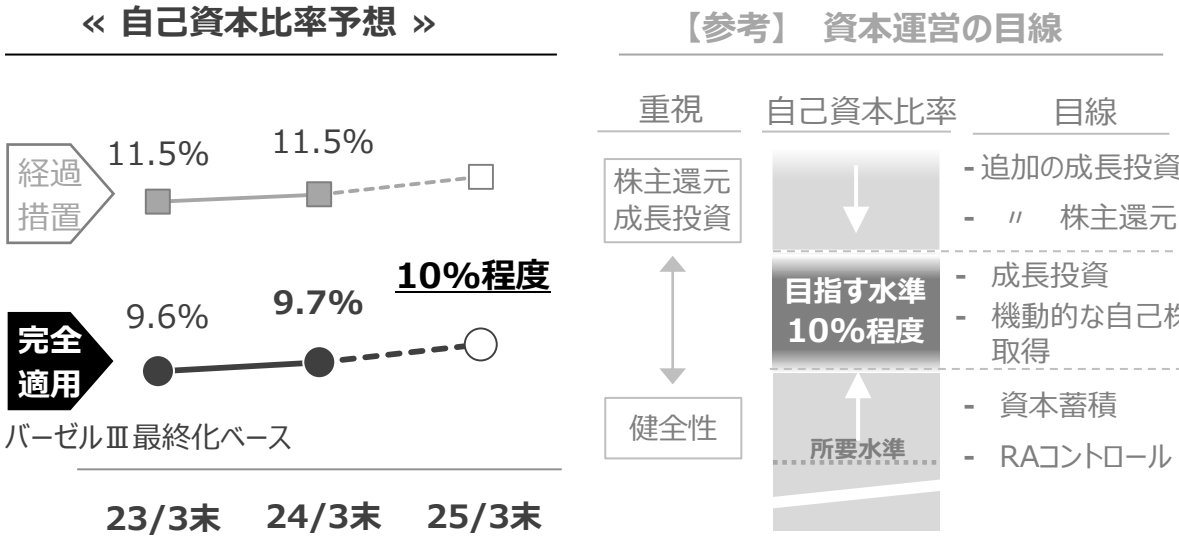
- 健全性の維持を前提に、成長投資と株主還元のバランスを考慮した資本運営を基本方針とする
- 株主還元は、配当の維持・増配を基本としており、2024年度は利益成長を踏まえ、前年比+15円の増配（中計比+5円）を計画

資本政策概要・自己資本比率予想

基本方針

株主還元

- **健全性維持**を前提に、地域経済の発展やFFG企業価値向上に向けた**株主還元と成長投資**のバランスをとった資本運営を目指す
- **利益成長を通じた安定的な配当（維持・増配）を基本**とし、自己株取得は機動的に実施を検討
 - 配当性向：35%程度
 - 自己株取得：業績動向や資本の状況、成長投資の機会、市場環境等を総合的に考慮したうえで機動的に実施を検討



株主還元について

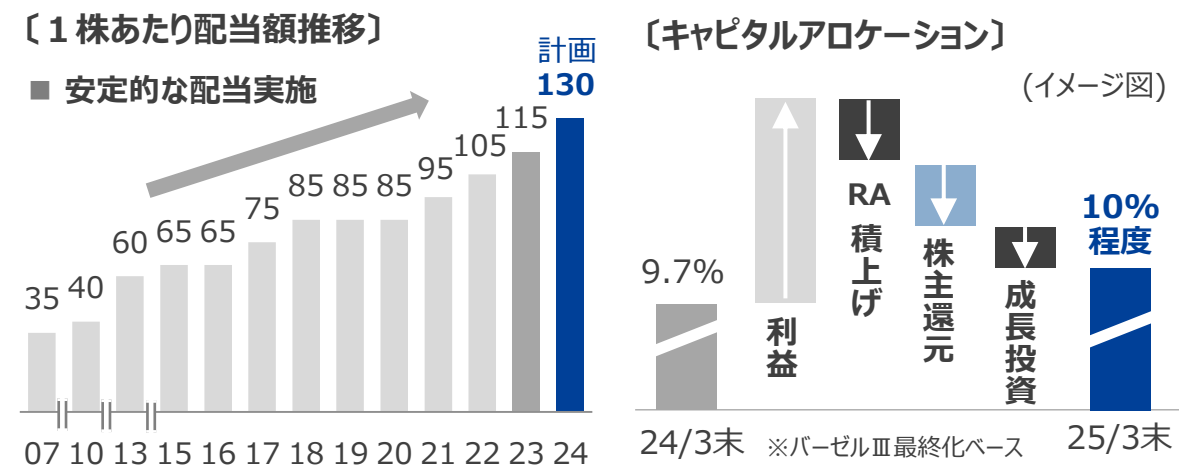
FY24配当金

配当テーブル(抜粋)

DPS : 130円〔配当性向35.9%〕
(前年比+15円) (中計比+5円)

- 利益成長を通じ増配
- 配当テーブル見直しを実施

	連結当期純利益	DPS目安	配当性向
FY24計画	675億円以上～ 新設	130円	～36.4%
FY24中計	650～675億円未満	125円	35.0～36.4%
	625～650億円未満	120円	34.9～36.3%
FY23実績	600～625億円未満	115円	34.8～36.2%



FFGの持続的な成長_5つのポイント

1. みんなの銀行の黒字化
2. 既存ビジネスモデルの変革
3. 九州経済の成長
4. 貯蓄から投資へ
5. 国内金利の上昇

みんなの銀行①

- 開業3年目となる2023年度は、BaaSでのAPI連携を開始し、顧客基盤・収益強化に注力
- 2024年度は見えてきた課題を踏まえ、「大口顧客基盤先とのアライアンス推進」を最重要取組みとし、黒字化の蓋然性を高めていく

2023年度の振り返り

ー BaaS連携先は拡大中である一方、口座の伸びは想定より遅い

主要計数	項目	FY23実績	23/11公表	評価
	口座数	96万口座 (前年比+36)	100万口座	概ね計画通り
	うちBaaS経由	5万口座	-	想定より遅い 課題
	ローン残高	118億円 (前年比+71)	120億円	概ね計画通り
	BaaS連携先数	5先	-	連携先拡大中
PL	事業損益(税後)	▲93億円	▲93億円	概ね計画通り

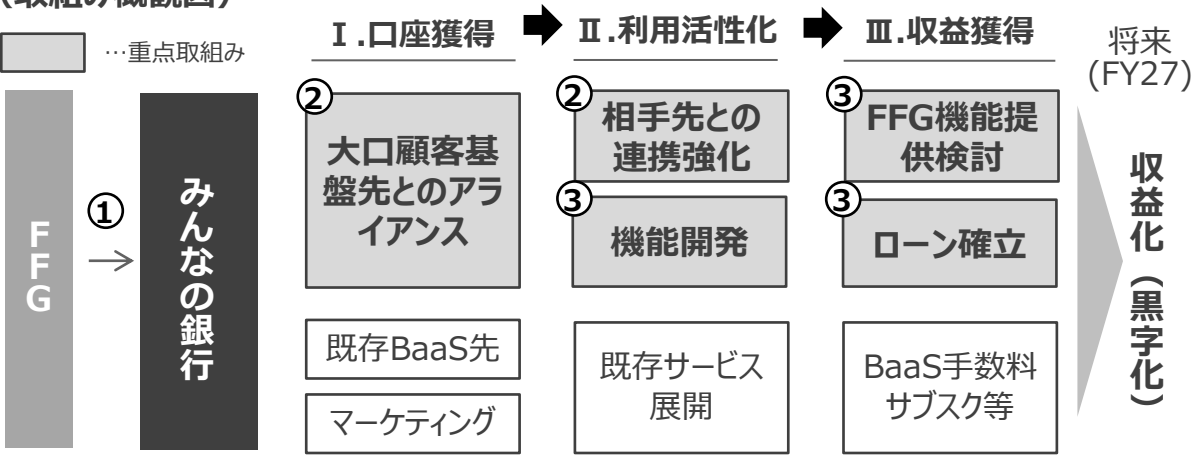
黒字化の蓋然性を高めていくため、今後改善や更なる対応が必要なこと

顧客 基盤	■ 口座獲得ペースアップ	▶ 大口顧客プールの必要性
	■ 相手先との強固な連携構築	▶ 更なる相手先とみん銀双方の強み融合
	■ 収益獲得に向けた対応強化	▶ 機能拡充・経営/推進体制強化 等
収益 基盤		

2024年度の取組み

- 重点取組み
- ① 経営体制強化
 - FFGリソース提供による推進体制強化(経営/営業推進⇒役員レベル配置)
 - ② 大口顧客基盤先とのアライアンス(協業)推進 **最重要**
 - 全国で大きな顧客基盤/商圏を有する先との協業を強力に推進
 - 知見/ノウハウ・サービス・リソース面等で連携、口座獲得・利用活性化を加速
 - ③ 機能強化・ローンビジネスの確立
 - みん銀基本機能強化・FFG機能提供検討(各種ローン等)
 - 既存ローンビジネス(収益プロダクト)の確立

(取組み概観図)



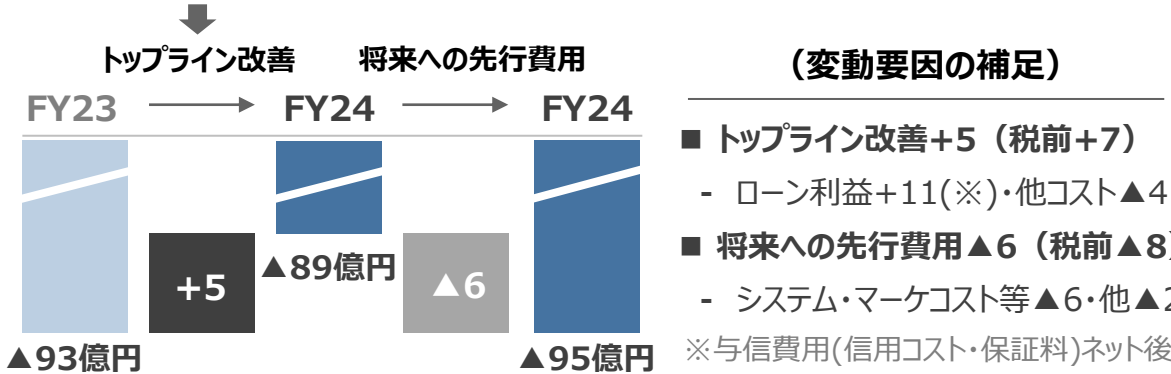
みんなの銀行②

- 2024年度は黒字化を見据えた先行費用を計上し、▲95億円を計画（2023年度と同水準）
- 引き続き、2027年度の黒字化を目指し、FFG全社で取組みを進める ➡ 並行して黒字化が実現できない可能性を見据えた対応も検討

2024年度計数計画

- ー ローンは二次保証を軸に残高積み上げを図る
- ー 損益計画は、黒字化に向け必要な将来への先行費用も織り込み

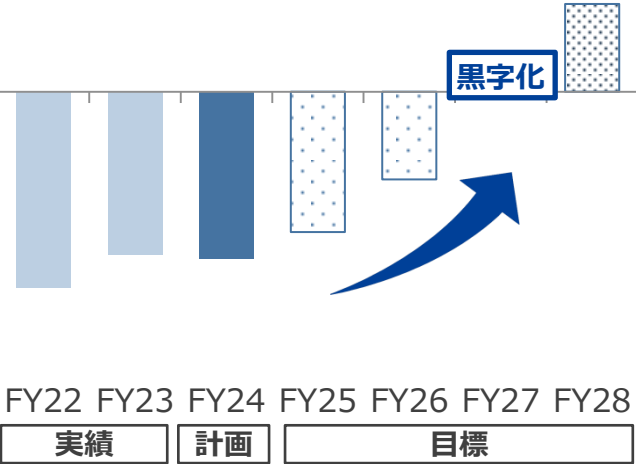
主要計数	項目	FY23実績	FY24計画	前年比
	口座数	96万口座	125万口座	+30万口座
	うちBaaS経由	5万口座	15万口座	+10万口座
	ローン残高	118億円	300億円	+180億円
	BaaS連携先数	5先	11先	+6先
PL	事業損益(税後)	▲93億円	▲95億円	ほぼ横ばい



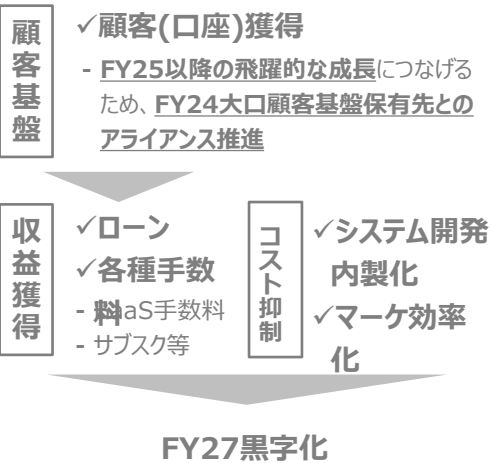
今後について

- ー 現在目標に定めている「2027年度黒字化」は変更なし
- ー 黒字化の蓋然性を高めていくため、重点取組みに注力していく

(みんなの銀行事業損益について)



黒字化プロセス(イメージ)



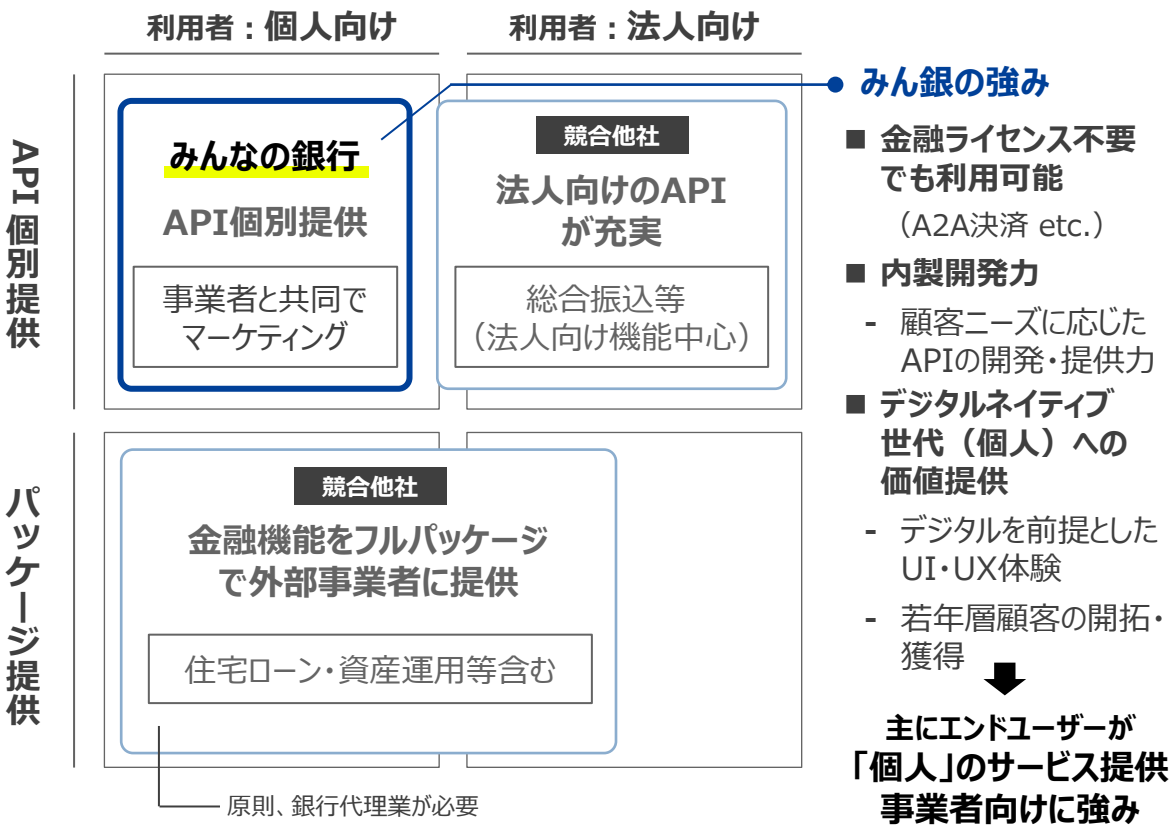
- みんなの銀行の収益化は、足元FFGにおける最も重要な課題
- FFG全社ベースで、みん銀事業の黒字化対応を強力に進めていく
 - ー 【同時並行】FY27黒字化を実現できない可能性も見据え、今年度はその場合の対応も同時に検討を進める

【参考】みんなの銀行 | BaaS事業の拡充

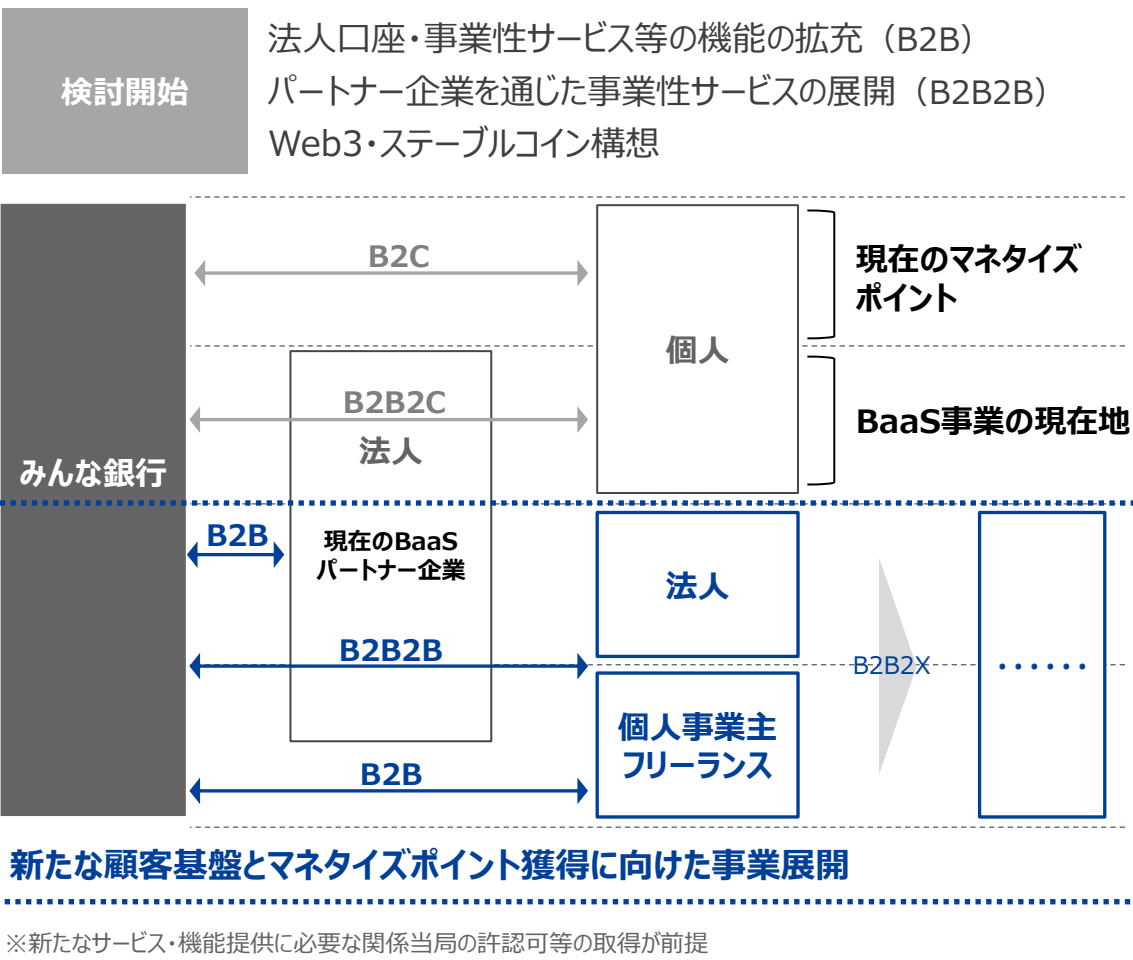
- 新たな顧客基盤とマネタイズポイント獲得のため、内製のサービス開発力を活かして、BaaSを起点とした事業領域の拡充を検討
→ B2C（個人）、B2B2C（現在のBaaS）の次の顧客向けサービス・機能を開発【次期中期経営計画】

BaaS事業における現在のポジショニング

- 各企業の業界特性・商取引に応じて、必要な機能をAPIベースで提供
- 現在のマネタイズポイントはBaaS起点の個人取引（≒ローン）中心

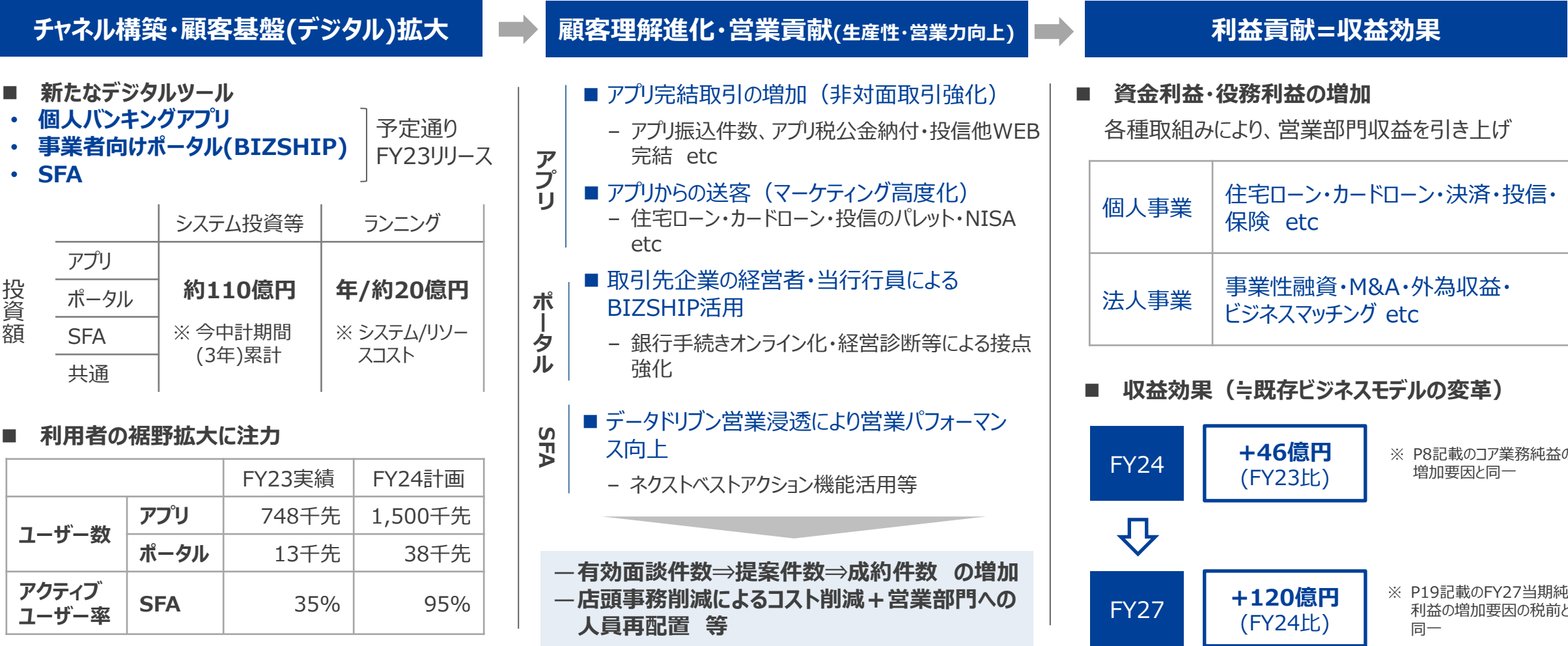


BaaSを起点とした事業領域の拡充



既存ビジネスモデルの変革（DX投資）

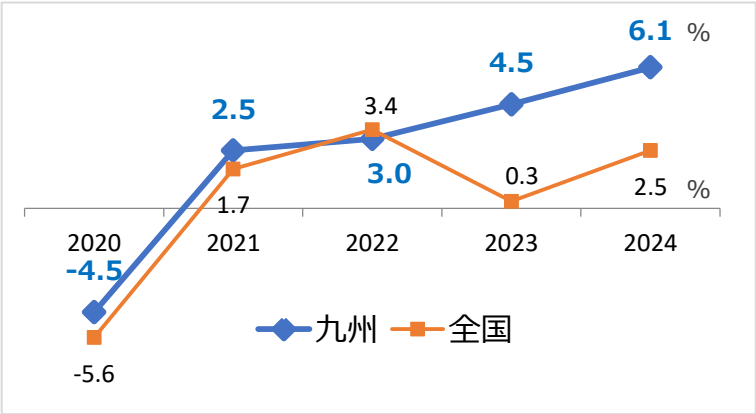
- 第7次中計では、既存ビジネスモデルの変革の起点として、新たなデジタルツールへの投資を実行
- デジタル顧客数の増加⇒顧客理解の進化を通じて、生産性・営業力の向上につなげ、投資効果の顕在化を図っていく



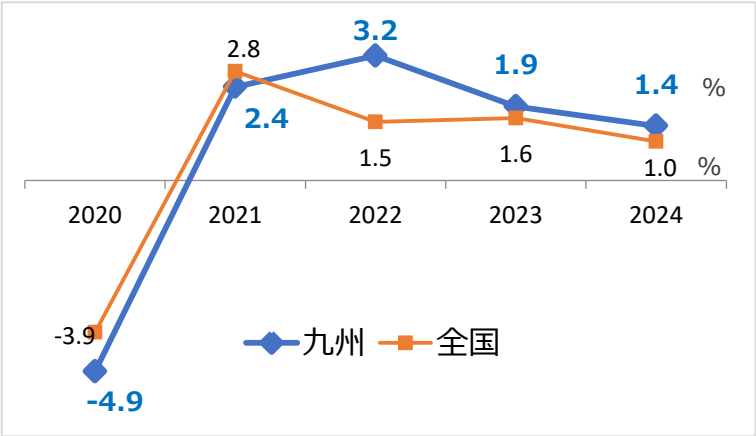
九州経済の成長

- 九州経済は、半導体関連を中心に設備投資が旺盛。2024年度の域内総生産は3年連続で全国平均を上回る
- 好調な九州経済のもと、FFGの強固な営業基盤を活かして、コアビジネス（法人・個人の営業部門）の成長を実現していく

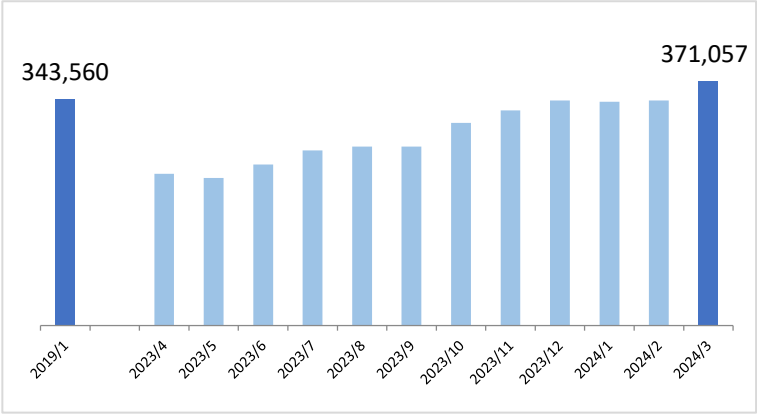
〔民間企業設備投資（前年度比）〕



〔域内総生産（九州・全国）〕



〔外国人入国者数（九州）〕



〔外国人延べ宿泊者数〕

	2023年	2019年比
首都圏	8,243万人	+13.6%
福岡	474万人	+11.2%
熊本	9.6万人	+2.9%
長崎	4.6万人	▲38.7%
地方部	3191万人	▲25.9%
全国	11,437万人	▲1.1%

〔FFGの営業基盤〕

〔預貸金残高比較（九州・沖縄）〕

Company	預金 + NCD (兆円)	貸出金 (兆円)
FFG	22	19
A社	10	8
B社	10	8
C社	3	2
D社	3	2

法人基盤

〔メインバンク取引先数（九州・沖縄）〕

Company	Number of Partners
FFG	42,506
A社	22,000
B社	20,000
C社	10,000
D社	8,000

個人基盤

Category	Count	Share
給振口座数	1,476千件	シェア約3割
年金受取口座数	779千件	シェア約3割

※ シェアは福岡県・熊本県・長崎県の生産年齢人口・老年人口（各県庁ホームページ）より、FFGが推計

九州経済の成長_シリコンアイランド九州の実現に向けて

- 九州における半導体関連の設備投資による経済波及効果は2021年からの10年間で20.1兆円と推計されている
- 新生シリコンアイランド九州の実現に向けて、資金需要を含めた関連ニーズなど、ビジネス機会の取込みに注力していく

これまでの取組み

2022/4	➢ 熊本銀行「 新地域開発推進チーム 」新設	体制強化
2022/12	➢ FFGと 中国信託ホールディング の業務提携	海外ビジネス
2023/1	➢ 熊本銀行と 菊陽町 との 包括連携 協定	国・自治体連携
2023/3	➢ 台湾ビジネスセミナー in熊本	海外ビジネス
2023/7	➢ 取引先の半導体関連企業への ヒアリング調査	半導体 サプライチェーン
2023/10	➢ FFG「 半導体ビジネス推進チーム 」新設	体制強化
2023/11	➢ ベンチャープラザ in台湾	海外ビジネス
2023/12	➢ TSMCサプライチェーン企業 とのマッチングイベント	半導体 サプライチェーン
2024/1	➢ 九州・沖縄11行地銀連携 協定	地銀間連携

FFGのビジネス機会

◆九州・沖縄における10年間の経済波及効果（九州経済調査協会による推計）

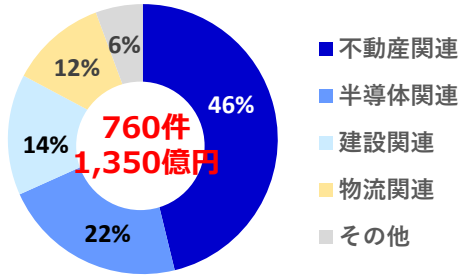
	設備投資	生産活動	合計
最終需要	6.1兆円	7.6兆円	13.7兆円
直接効果	4.5兆円	7.6兆円	12.0兆円
1次間接効果	2.0兆円	3.9兆円	6.0兆円
2次間接効果	0.7兆円	1.3兆円	2.0兆円
経済波及効果	7.3兆円	12.8兆円	20.1兆円

「FFGの取引先における資金需要等は今後拡大していく見通し」

◆半導体関連取引先向けの融資残高（億円）

	先数	23/3	24/3	年率
BOF	377	1,143	1,282	12.2%
KMB	104	104	143	36.8%
JSB	120	270	276	2.3%
FFG	601	1,517	1,701	12.1%

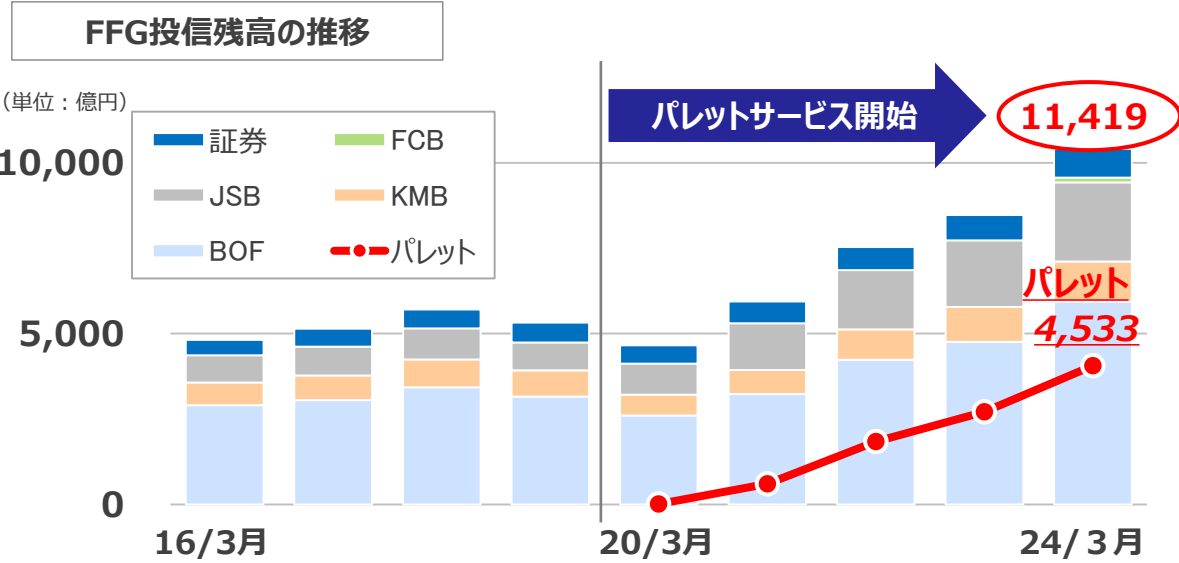
◆熊本銀行への融資相談（累計）



貯蓄から投資へ_資産運用ビジネス

- 2020年の“投信のパレット”導入以降、長期の資産形成を後押しするビジネスモデルを展開し、投信残高の増加とともにストック収益を拡大
- 資産運用立国に向けて「貯蓄から投資へ」の機運が高まる中、銀行・証券一体で顧客ニーズを取り込んでいく

投信ビジネスの変革



パレット開始以降の投信収益

	FY20実績	FY21実績	FY22実績	FY23実績	FY24計画
フロー収益	34億円	56億円	40億円	57億円	53億円
ストック収益	26億円	↑ 35億円	↑ 41億円	↑ 52億円	↑ 59億円
投信収益	60億円	91億円	81億円	109億円	112億円

顧客基盤（24/3末）

積立投信契約先数

255千先

積立投信年間振替額

62.5億円

NISA口座数

334千口座

個人口座数（活動顧客）

665万口座

住宅ローン先数

21万先

法人債務者先数

6.9万先

収益機会の獲得に向けた取組み

- **NISAを起点とした基盤拡大**
 - 銀行・証券での総合提案によるNISA新規獲得強化
- **アプリ等を活用した非対面営業・マーケティングの強化**
 - 非対面チャネルでの取引増加を企図したWEBやアプリ等の活用強化
- **FFGが持つ顧客基盤へのアプローチ**
 - 住宅ローン先へのライフプランコンサルティング・法人取引先への職域営業

国内金利の上昇_資金利益への影響

- 現状の政策金利を踏まえた市場金利水準が継続した場合、貸出金ポートの入れ替わりに伴い円金利関連の資金利益は100億円程度増加
- 顧客行動の変容など状況に応じた対応を行いながら、収益機会の取り込みを進めていく

FFGの円貨ポートフォリオ

《 円貨BS概略（24年3月末基準） 》

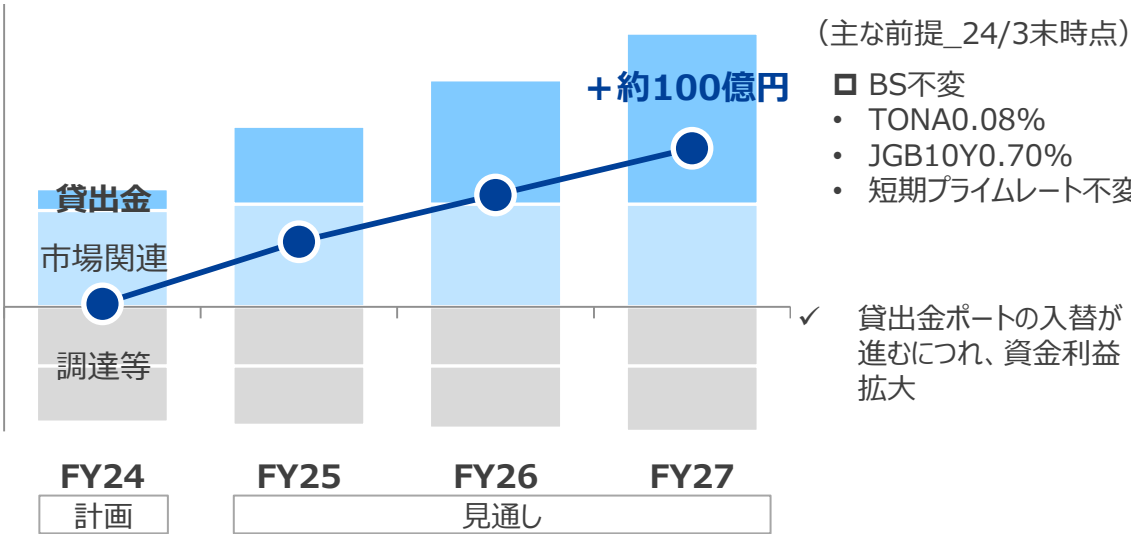
貸出金 約15兆円		預金 約21兆円	
固定金利	6.4兆円	流動性預金	16.0兆円
市場連動金利	2.5兆円	コア預金	8.6兆円
その他変動金利	6.1兆円	定期性預金	5.0兆円
政府向け貸出金 約3兆円		市場調達 約2兆円	
有価証券 約3兆円		日銀オペ 約6兆円	
日銀当座預金 約8兆円			

【運用：約29兆円】

【調達：約29兆円】

円金利関連の資金利益影響額（年間）

- 現状の市場金利水準が継続した場合



金利効果取り込みに向けた対応

営業部門

- ・ 適切な利鞘確保・固定金利ニーズ取り込み
- ・ アプリ等による基盤取引拡大を通じた粘着性高い預金の獲得強化

市場部門

- ・ 中短期投資を中心としたリスクリターン最適化

《 参考 》 追加で政策金利が + 10bps 上昇した場合のシミュレーション

主な金利	前提（1年目に即時上昇後、据え置き）
市場金利	長期/短期とも一律 + 10bps
短期プライムレート	+ 10bps
預金金利	市場金利を踏まえた引上げを想定

3年後（年換算ベース）

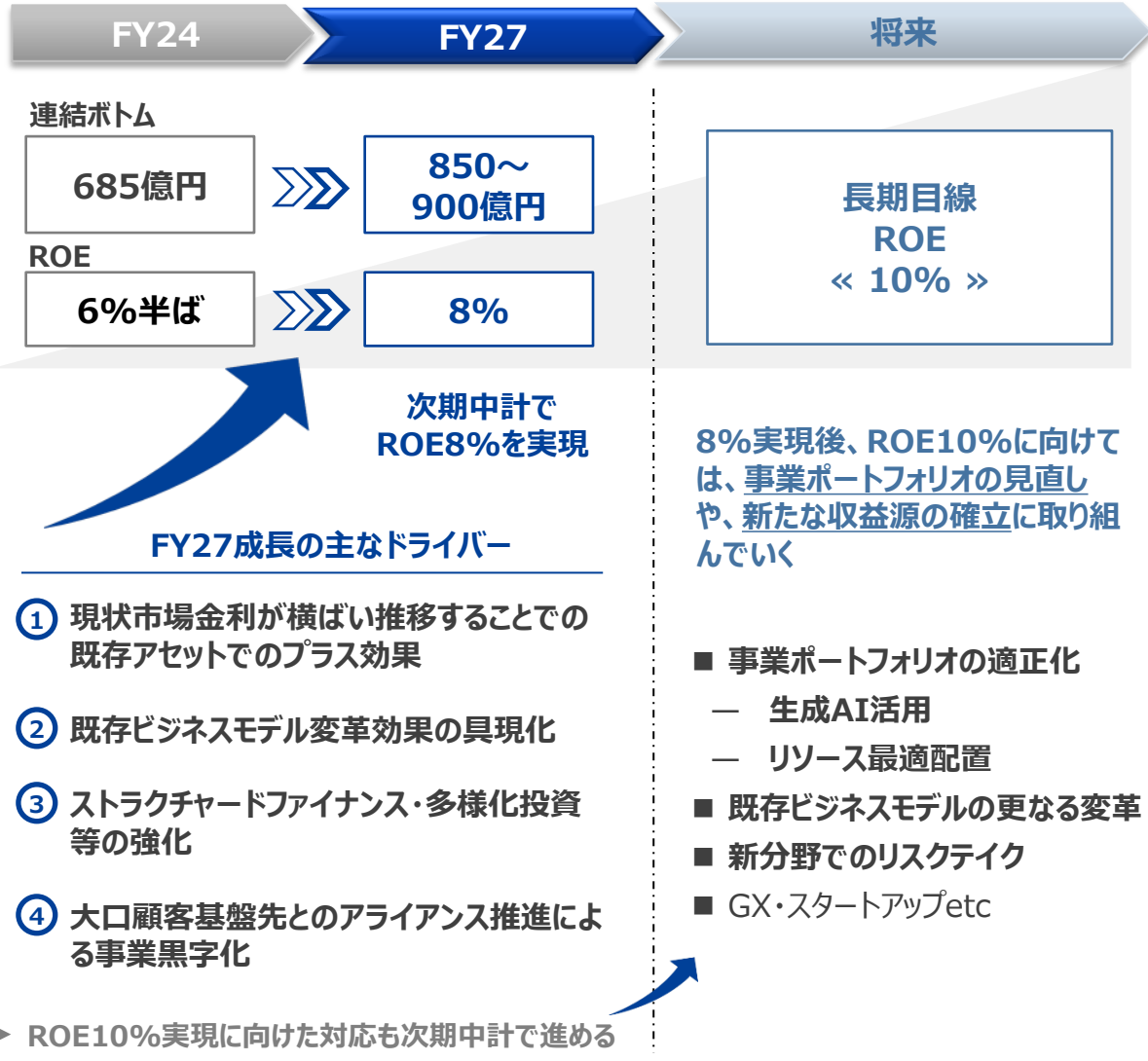
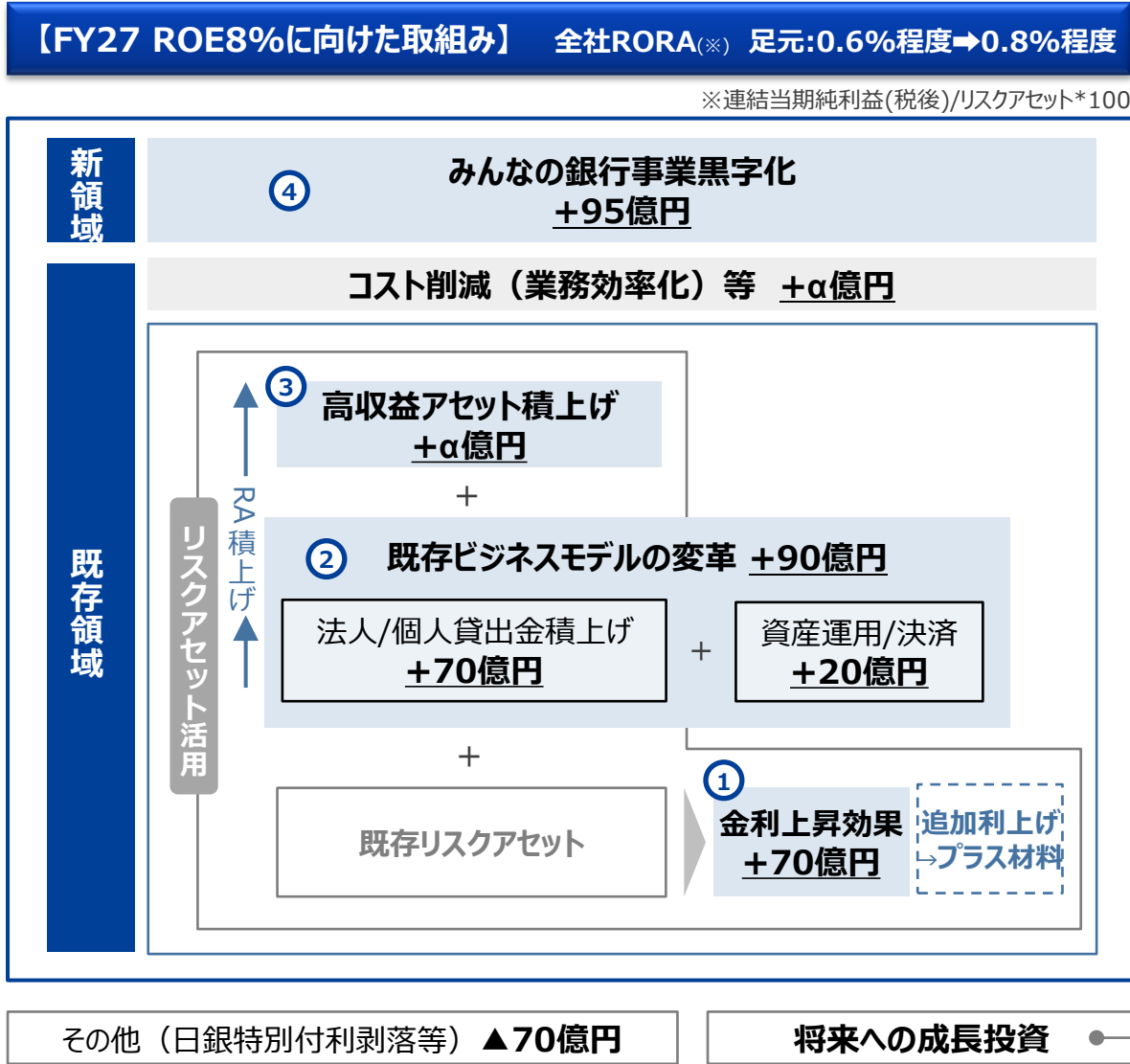
資金利益増加額	+ 70億円程度
短期金利上昇要因	+ 30億円程度
中長期金利上昇要因	+ 40億円程度

持続的な利益成長/ROE向上に向けて

(ボトム影響)

プラス

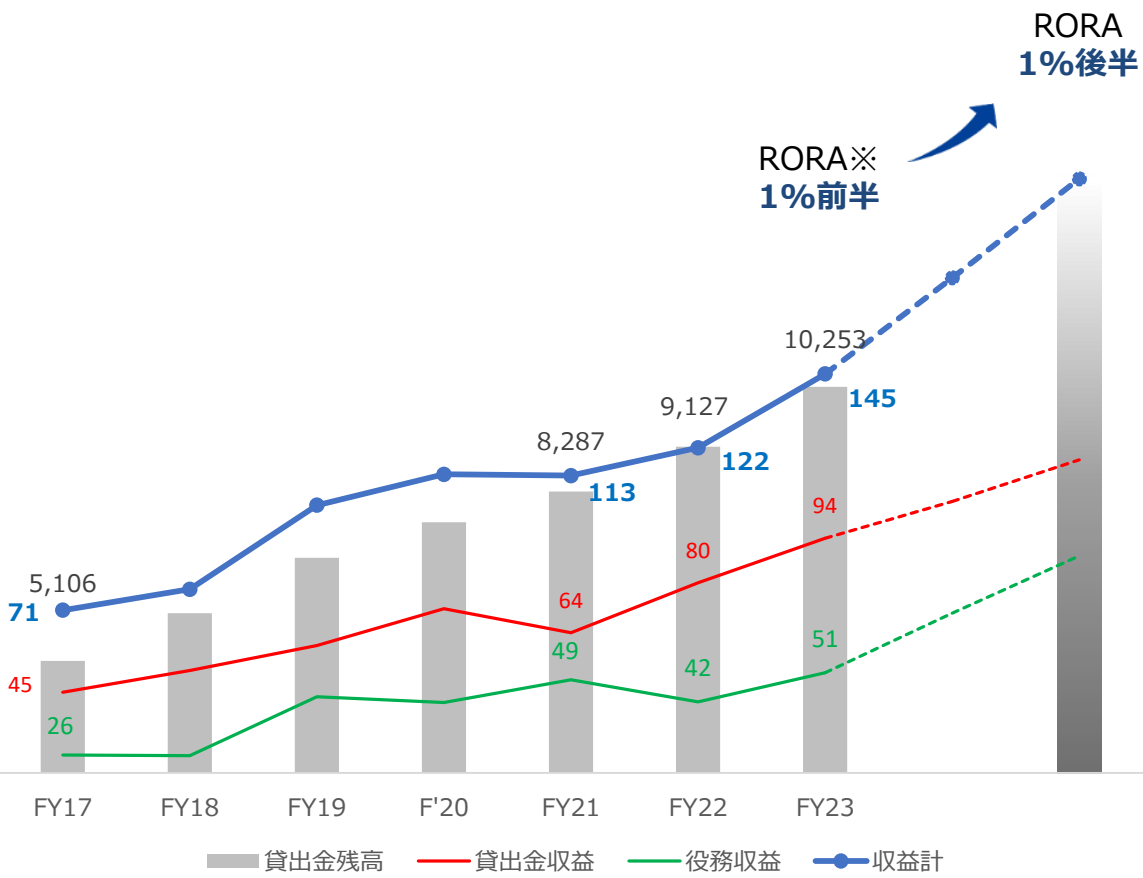
マイナス



【参考】ストラクチャードファイナンス/多様化投資

ストラクチャードファイナンス（福岡銀行）

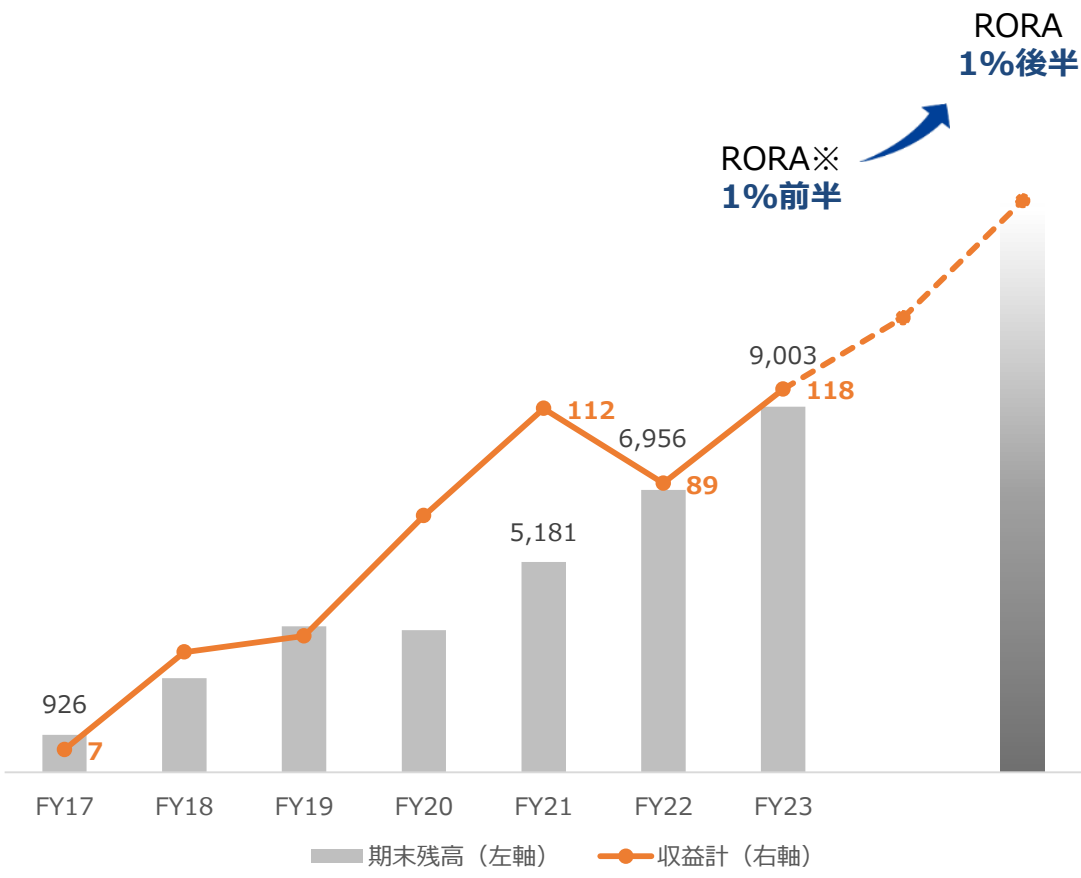
(単位：億円)



※RORA = (業務純利益-信用コスト) / リスクアセット

多様化投資

(単位：億円)



※RORA = (業務純利益-信用コスト) / リスクアセット

あなたのいちばんに。



ふくおかフィナンシャルグループ

Part II 決算・業績予想

(参考資料)

- 2023年度の決算の詳細データについては、弊社ホームページに開示しております「2023年度決算ハイライト」をご覧ください。
<https://www.fukuoka-fg.com/investorimage/data/20240513.pdf>

損益サマリー（銀行合算の内訳）

損益（FFG連結）		
	FY24 計画	前年比
業務粗利益	2,642	+352
実質業務純益	1,050	+262
コア業務純益	1,020	+16
経常利益	995	+426
連結当期純利益	685	+73

※親会社株主に帰属する当期純利益

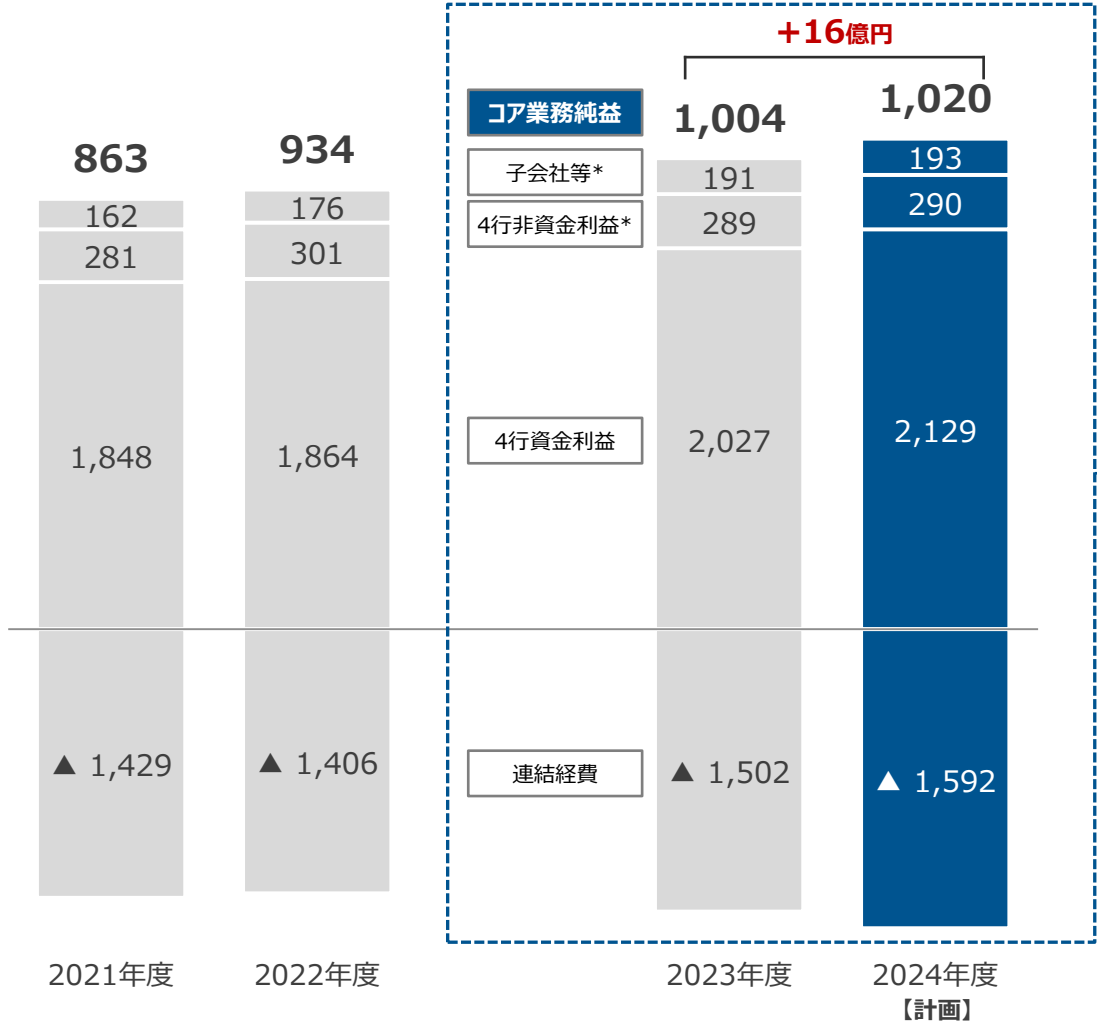
当期純利益（4行単体合算）	892
FFG単体	▲143
みんなの銀行関連	▲95
子会社損益	45
その他連結調整	▲14
FFG連結当期純利益	685

2024年度計画 (単位：億円)	銀行合算									
	銀行合算		福岡銀行単体		熊本銀行単体		十八親和銀行単体		福岡中央銀行単体	
	計画	前年比	計画	前年比	計画	前年比	計画	前年比	計画	前年比
コア業務粗利益	2,418	+88	1,603	+49	224	▲ 1	515	+3	76	+38
資金利益	2,129	+101	1,391	+64	206	+1	458	▲ 1	73	+37
国内部門	1,987	+68	1,261	+39	206	+2	447	▲ 10	73	+37
国際部門	141	+34	130	+25	0	▲ 0	11	+9	0	▲ 0
非資金利益（債券損益除く）	290	▲ 13	212	▲ 16	18	▲ 3	57	+4	3	+1
役務取引等利益	293	+3	209	▲ 1	17	▲ 2	63	+5	3	+1
特定・その他業務利益	▲ 4	▲ 16	3	▲ 15	1	▲ 1	▲ 7	▲ 1	0	▲ 0
経費（△）	1,232	+82	695	+27	140	+10	333	+12	64	+34
コア業務純益	1,186	+6	908	+22	84	▲ 11	182	▲ 9	12	+4
（除く投資信託解約損益）	(1,206)	(▲ 2)	(919)	(+14)	(84)	(▲ 11)	(191)	(▲ 9)	(12)	(+4)
経常利益	1,212	+388	949	+303	74	+10	179	+40	10	+35
当期純利益	892	+271	689	+204	56	+9	141	+36	7	+22
信用コスト（△）	63	▲ 95	35	▲ 52	8	▲ 9	17	▲ 16	3	▲ 18
有価証券関係損益	80	+260	68	+217	0	+10	12	+23	0	+10
国債等債券損益	30	+270	24	+205	0	+10	6	+29	0	+26
株式関係損益	50	▲ 10	44	+12	0	+0	6	▲ 6	0	▲ 16

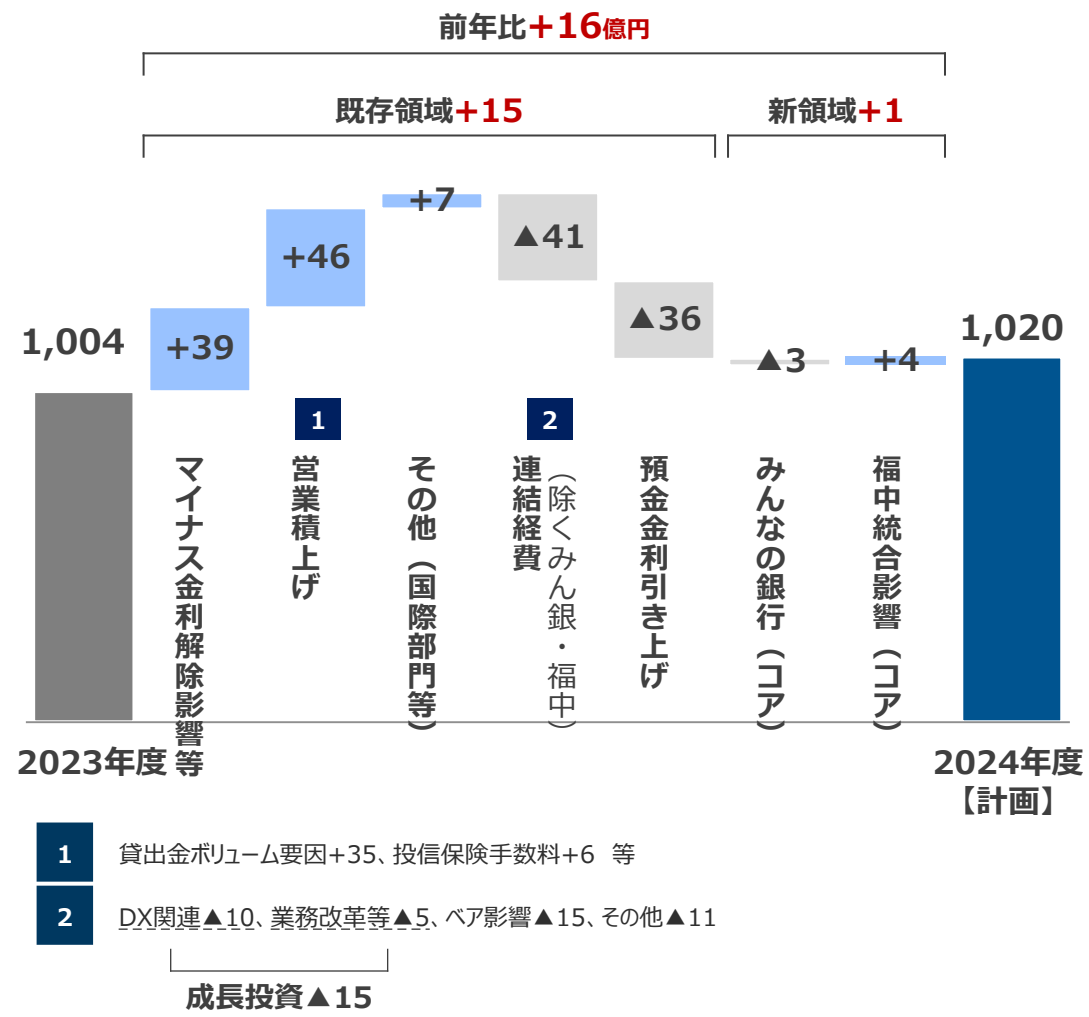
トップライン（連結コア業務純益）

コア業務純益の推移（FFG連結）
(単位：億円)

[非資金利益] 債券損益除く、[経費] 除く臨時処理分



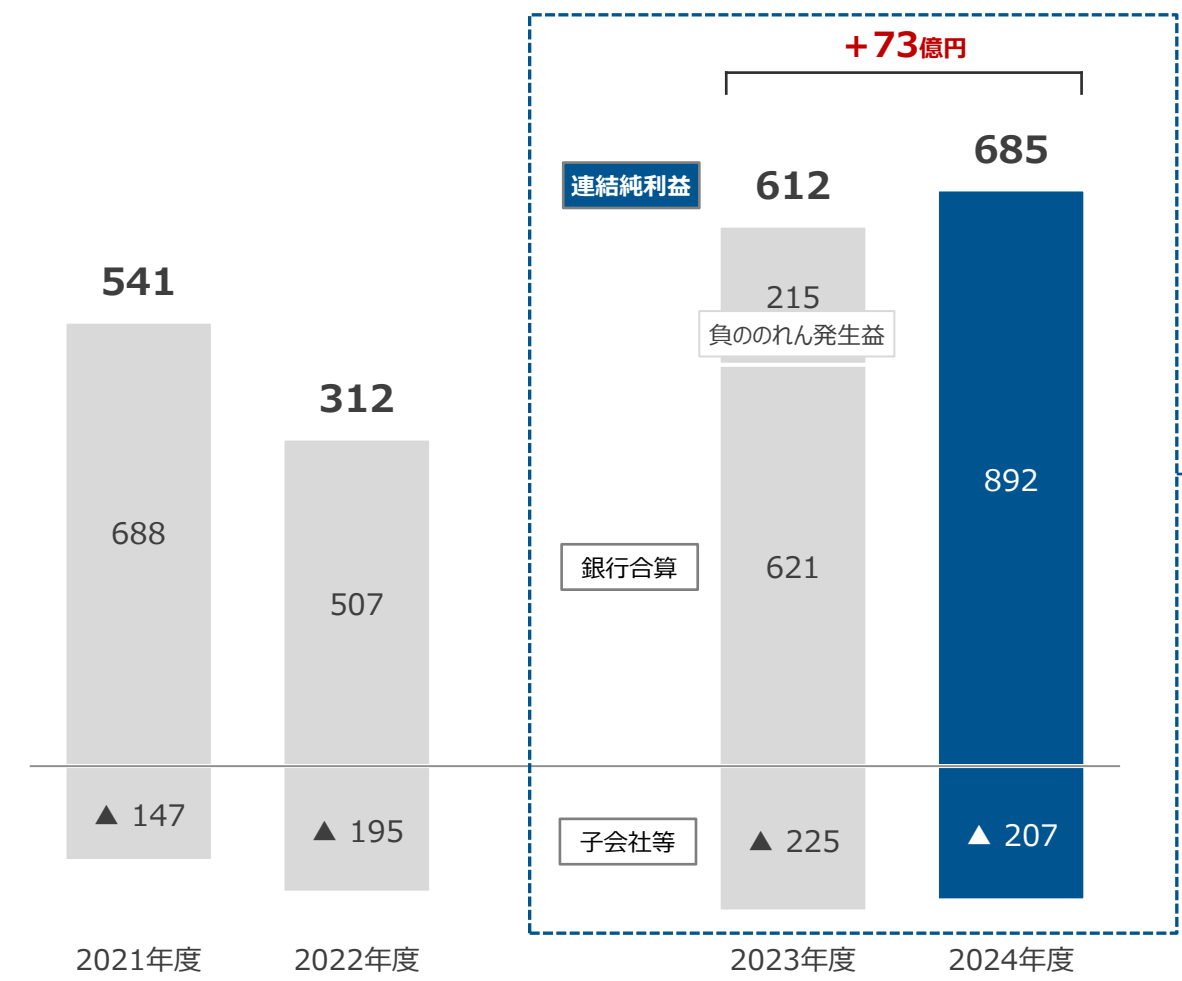
前年比増減の内訳（FFG連結）
(単位：億円)



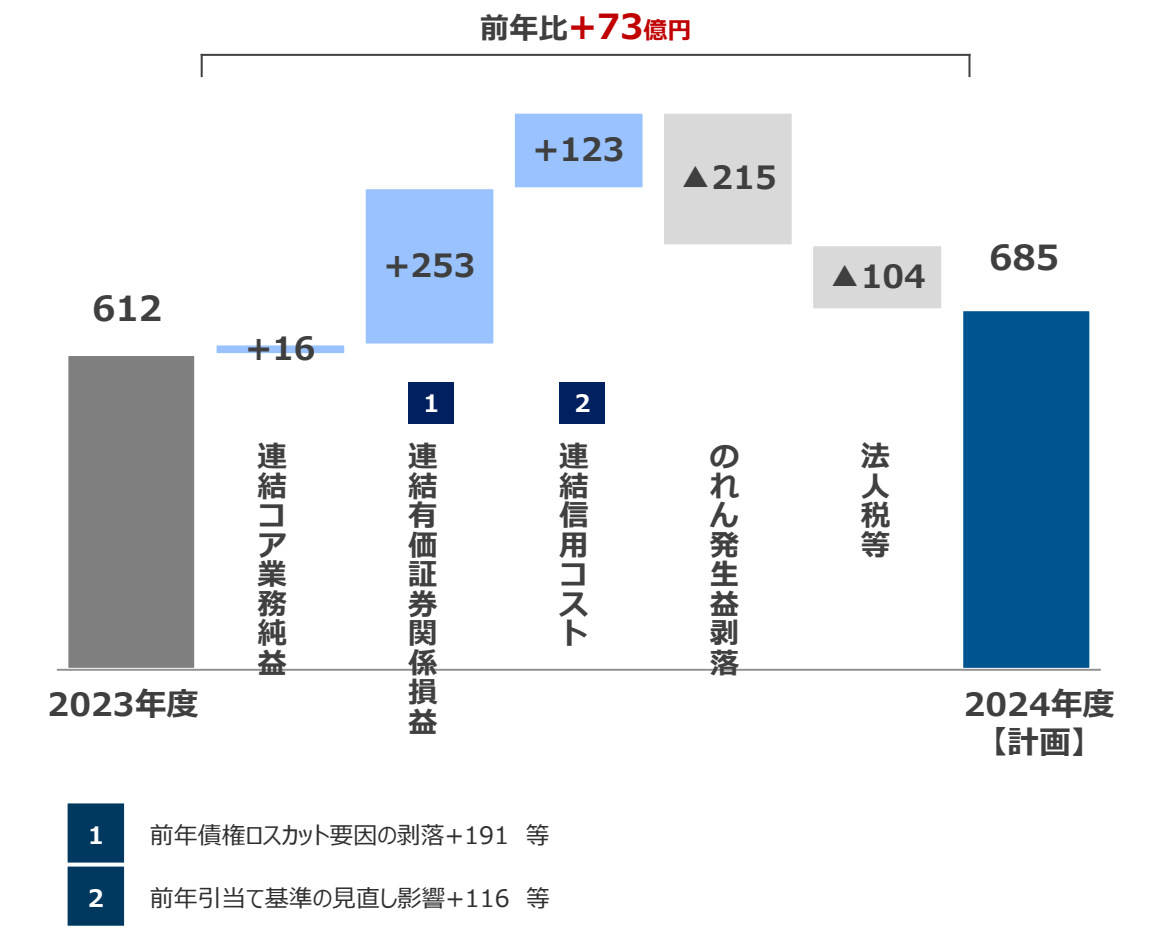
*4行非資金利益/子会社等：グループ内取引にかかるCVA相殺後

ボトムライン（連結純利益）

連結純利益の推移 (単位：億円)



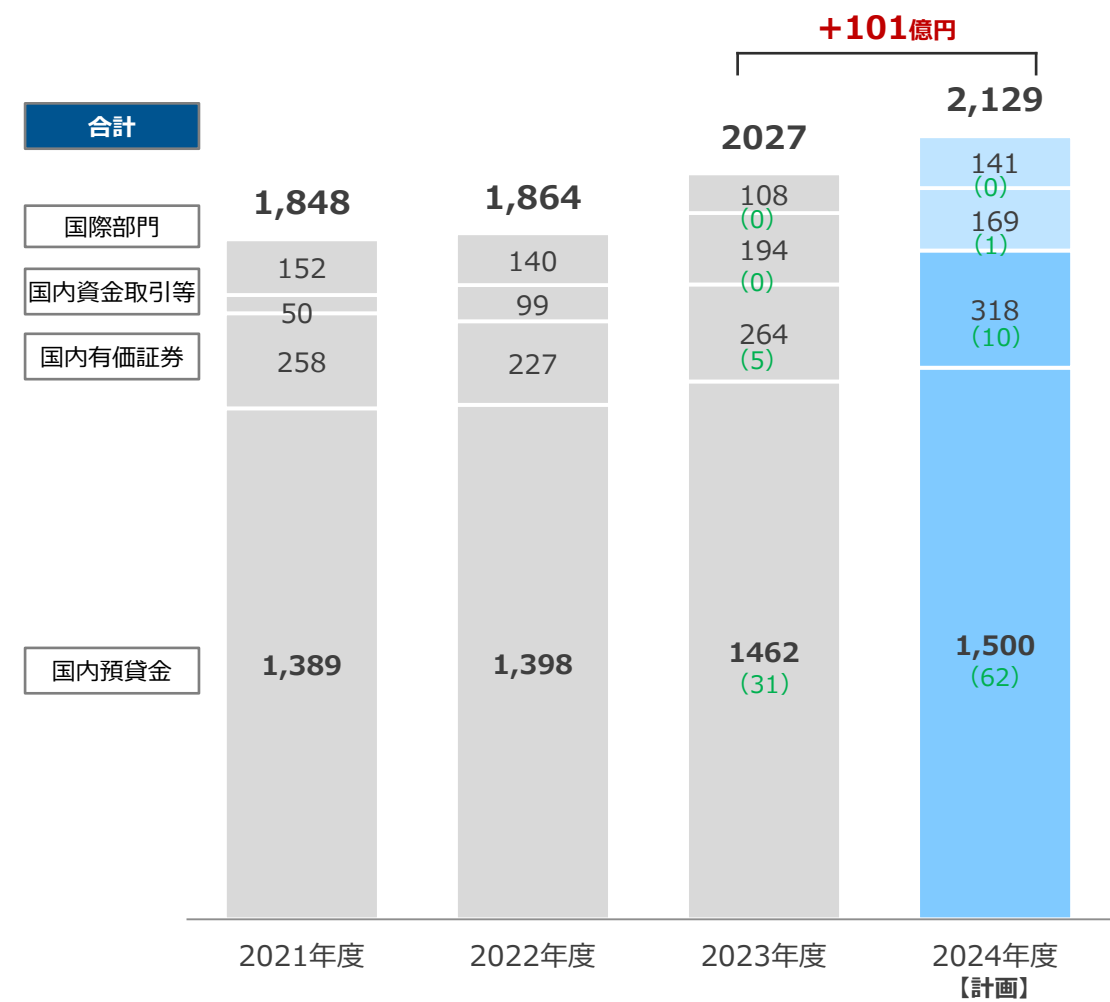
前年比増減の内訳 (単位：億円)



資金利益（銀行合算）

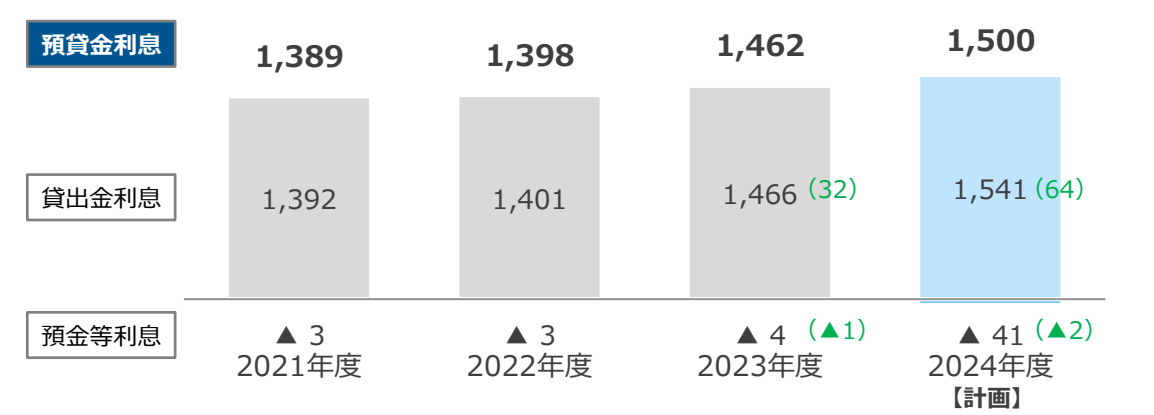
資金利益（銀行合算）(単位：億円)

国内預貸金：政府向け貸出金、福岡銀行のFFG向け貸出金を除く



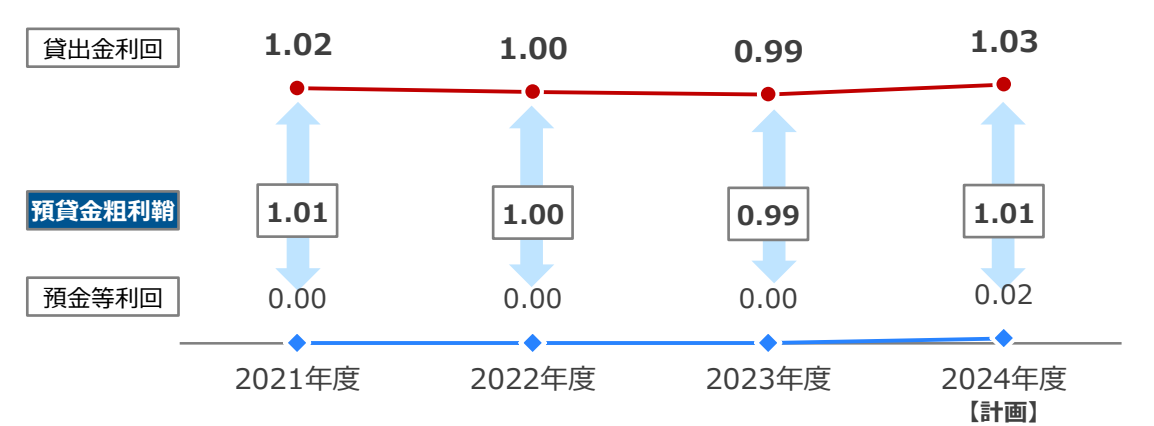
国内預貸金利息（銀行合算）(単位：億円)

国内預貸金：政府向け貸出金、福岡銀行のFFG向け貸出金を除く



国内預貸金粗利鞘（銀行合算）(単位：%)

貸出金利回：政府向け貸出金、福岡銀行のFFG向け貸出金を除く



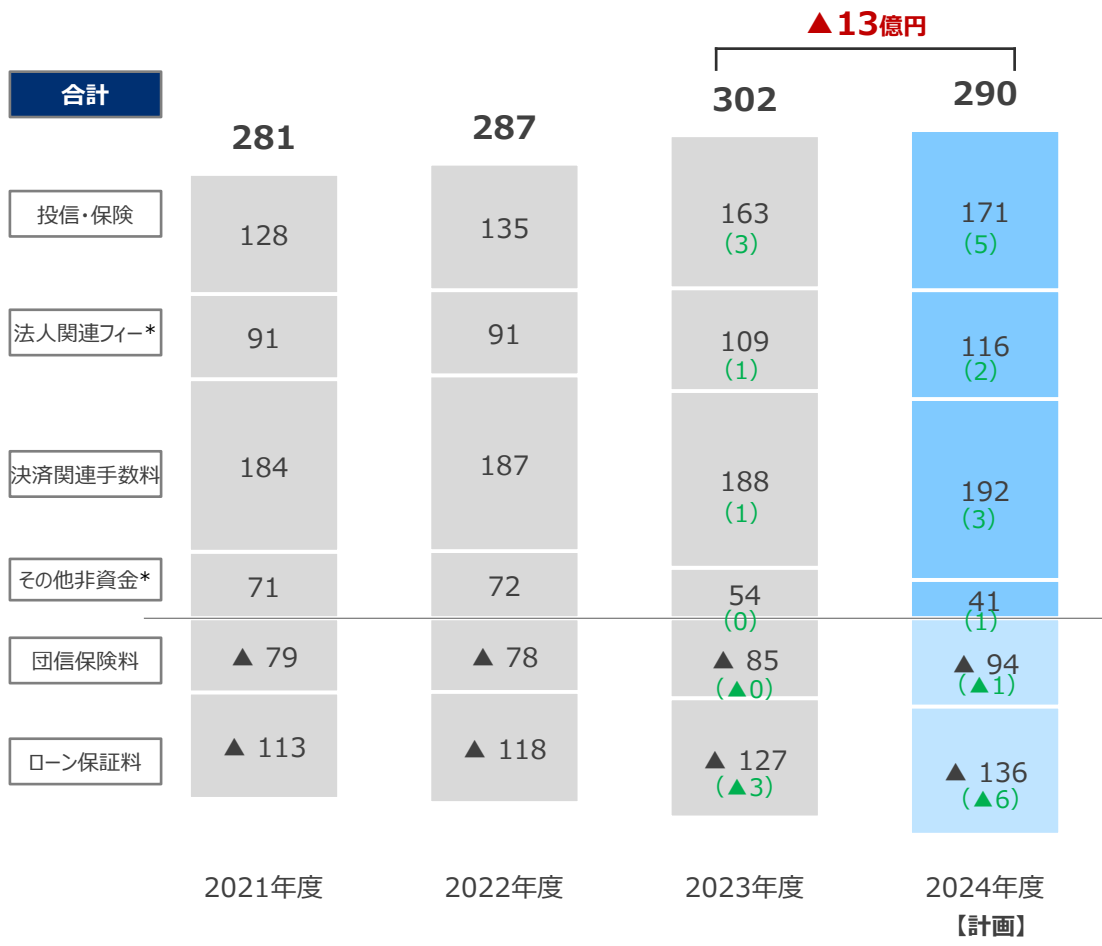
※カッコ内は福岡中央銀行 [単体]、2023年度は半期のみ

非資金利益（除く債券損益）

非資金利益（銀行合算）

（単位：億円）

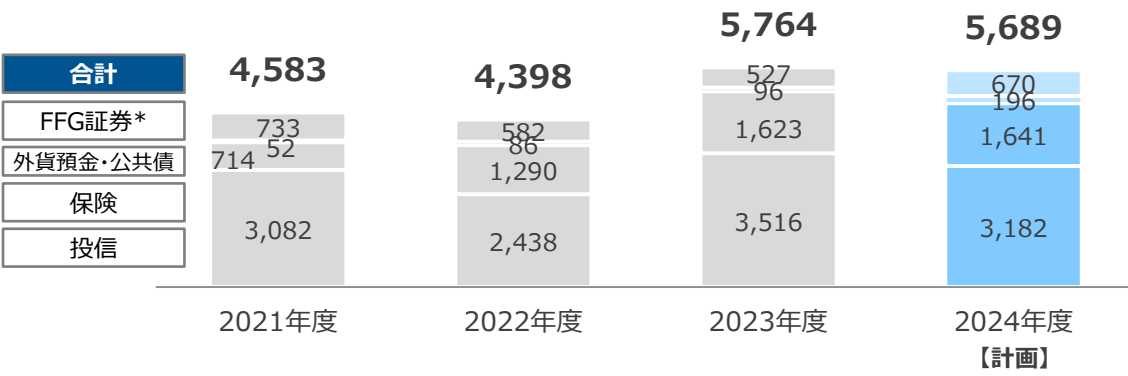
*法人関連フィー：融資手数料（シ・ローン、ストラクチャードファイナンス等）・M&A手数料等
*その他非資金：グループ内取引にかかるCVA相殺前



資産運用商品販売額（グループ合算）

（単位：億円）

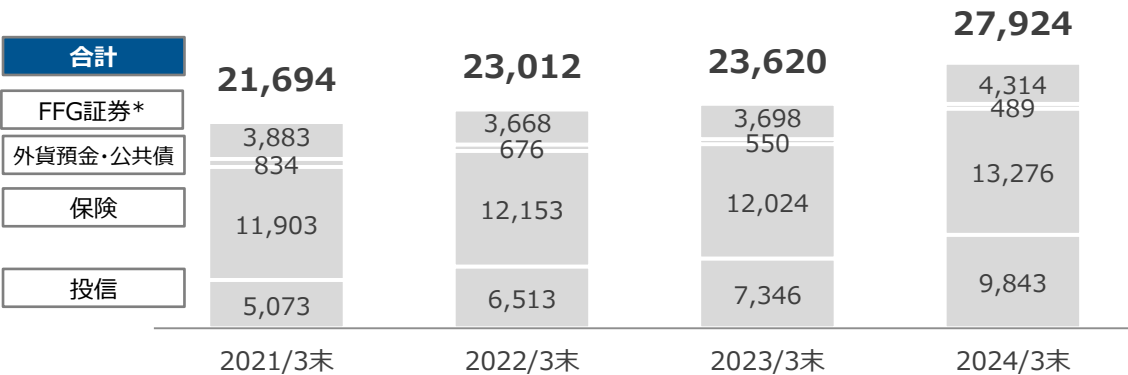
*FFG証券：投信・債券販売額の合計



個人預り資産残高（グループ合算）

（単位：億円）

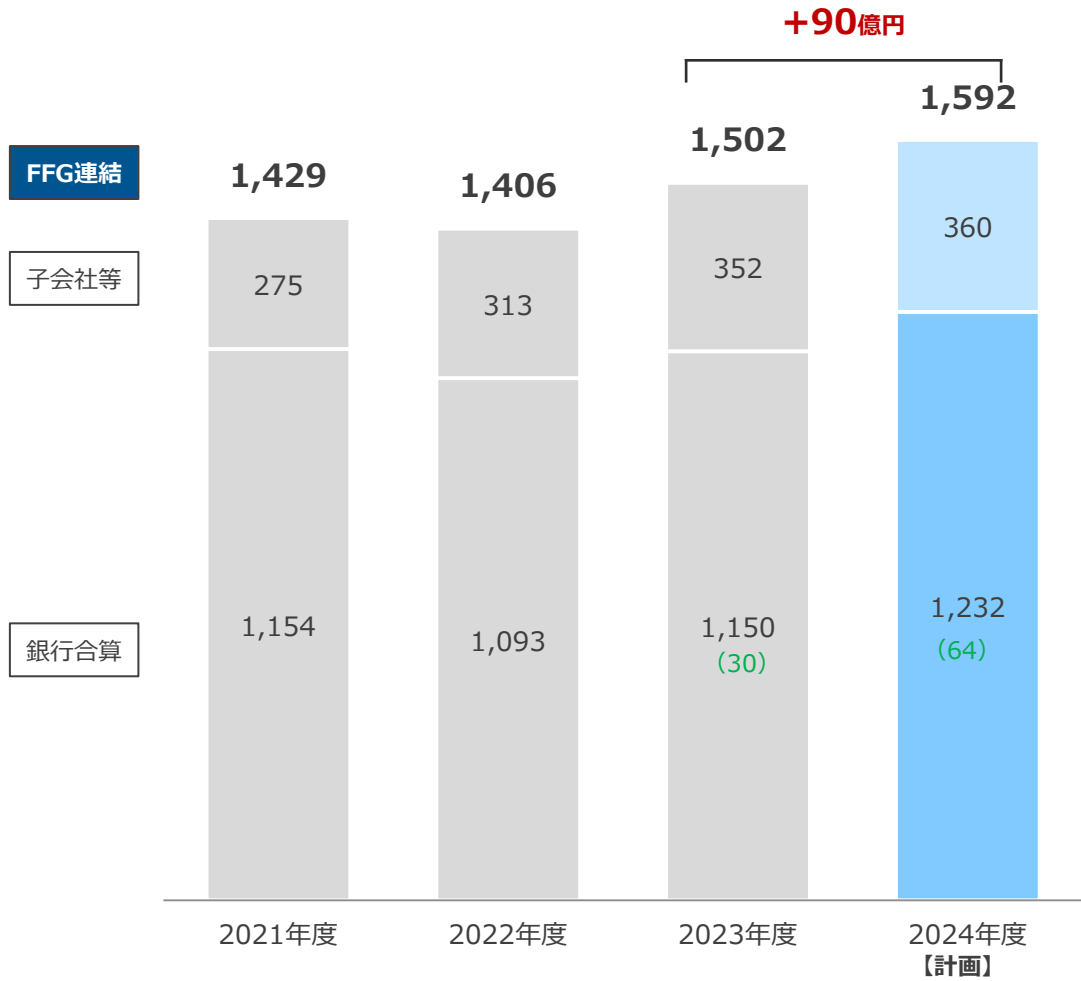
*FFG証券：個人の投信・株式・債券残高の合計



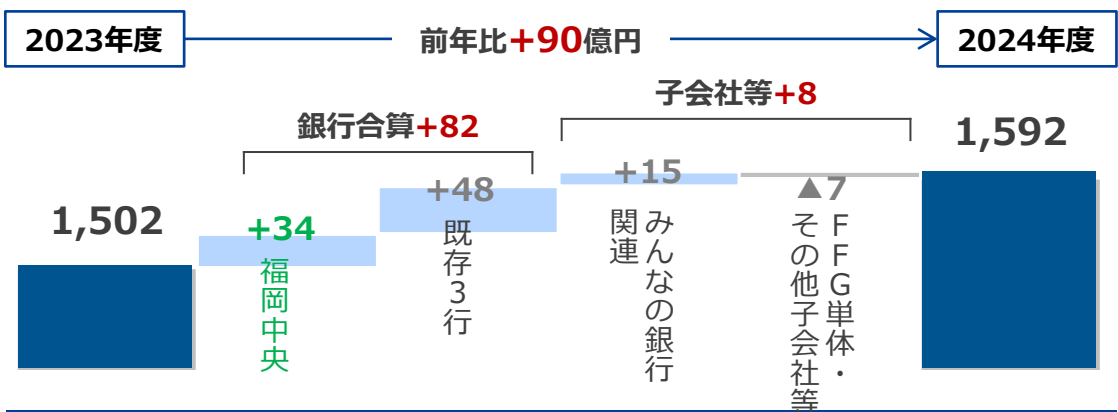
連結経費

経費の推移（FFG連結）
(単位：億円)

【除く臨時処理分】

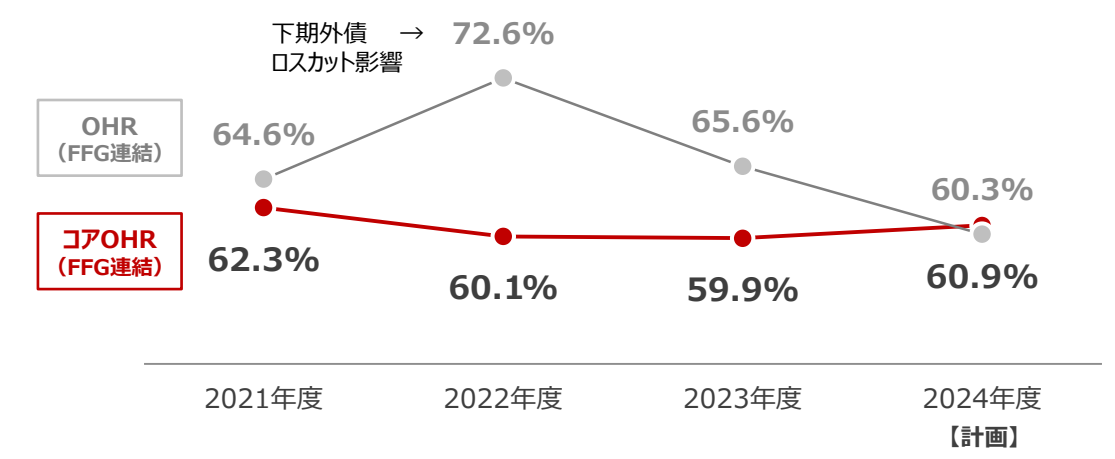


前年比増減の内訳
(単位：億円)



コアOHR（FFG連結）

OHR (%) = 経費（除く臨時処理分）÷ 業務粗利益
コアOHR (%) = 経費（除く臨時処理分）÷ 業務粗利益（債券損益除く）

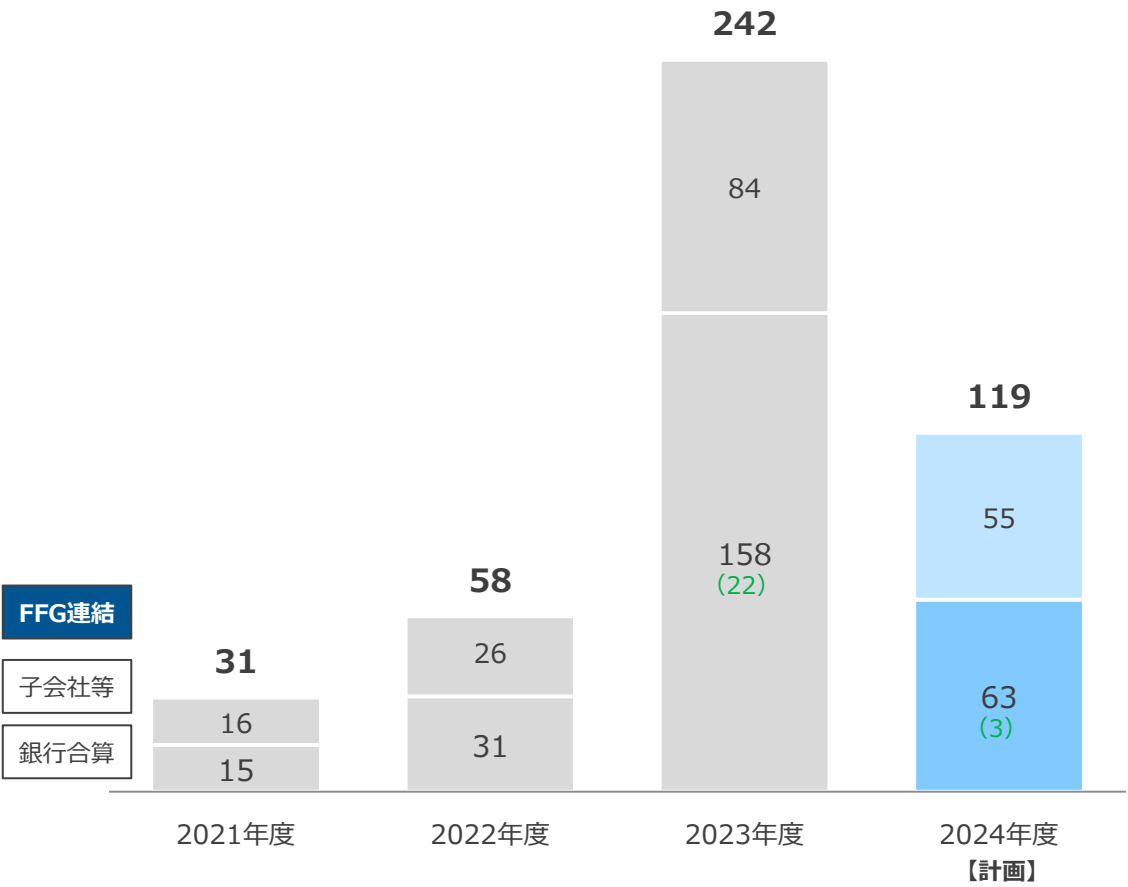


※カッコ内は福岡中央銀行 [単体]、2023年度は半期のみ

連結信用コスト / 金融再生法開示債権・貸倒引当金

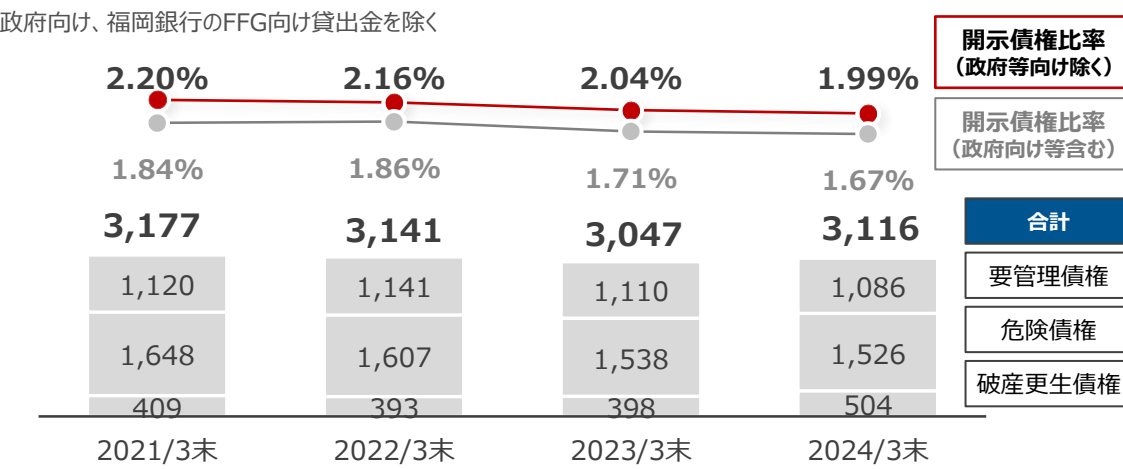
信用コスト（▲）の推移（FFG連結）

（単位：億円）



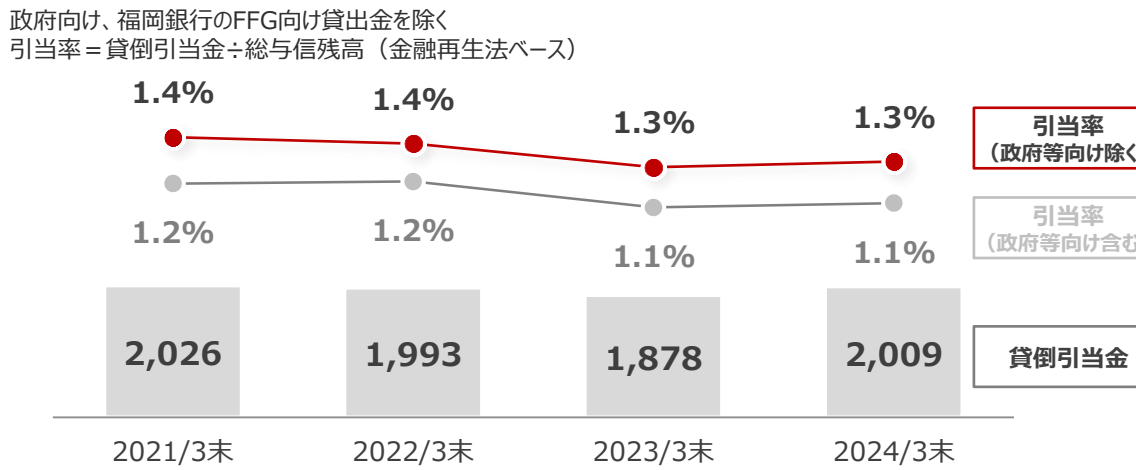
金融再生法開示債権残高・比率（FFG連結）

（単位：億円）



貸倒引当金・引当率（FFG連結）

（単位：億円）



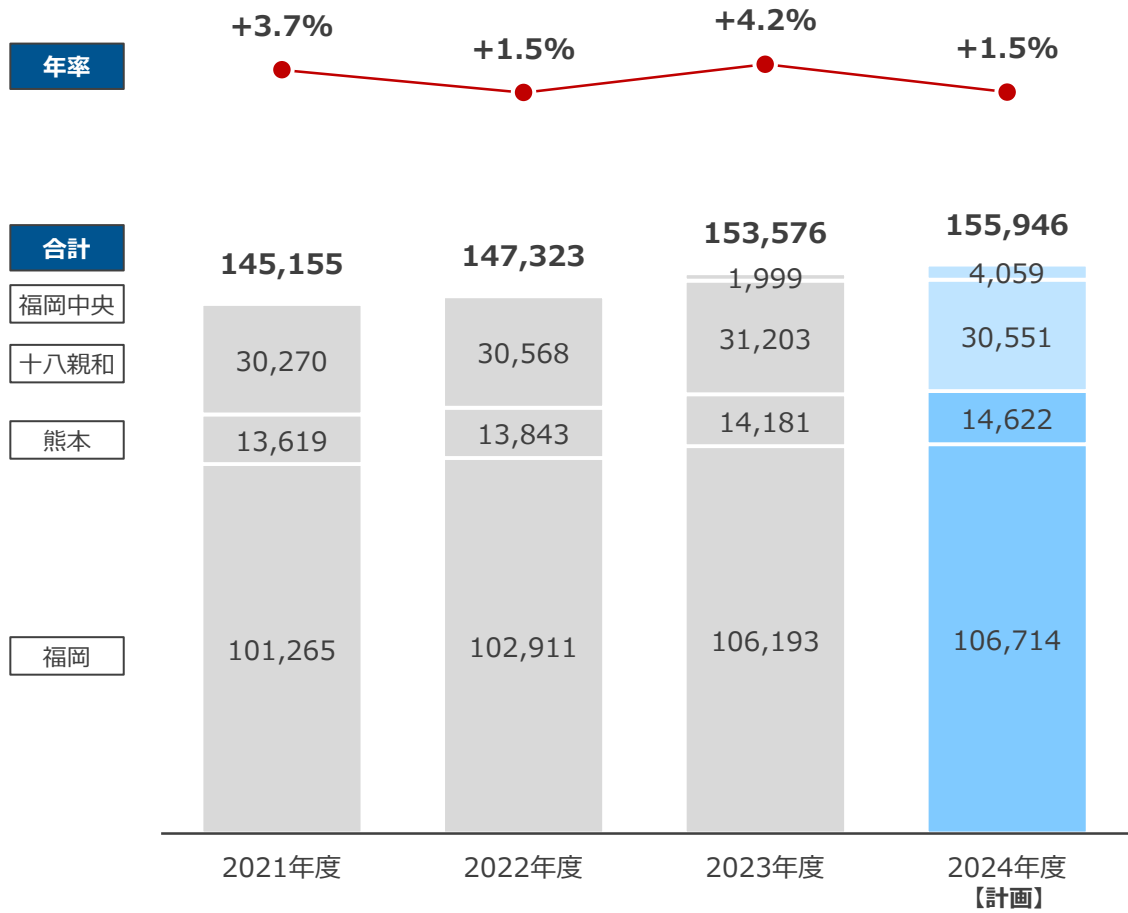
※カッコ内は福岡中央銀行 [単体]、2023年度は半期のみ

貸出金平残

銀行別平残

(単位：億円)

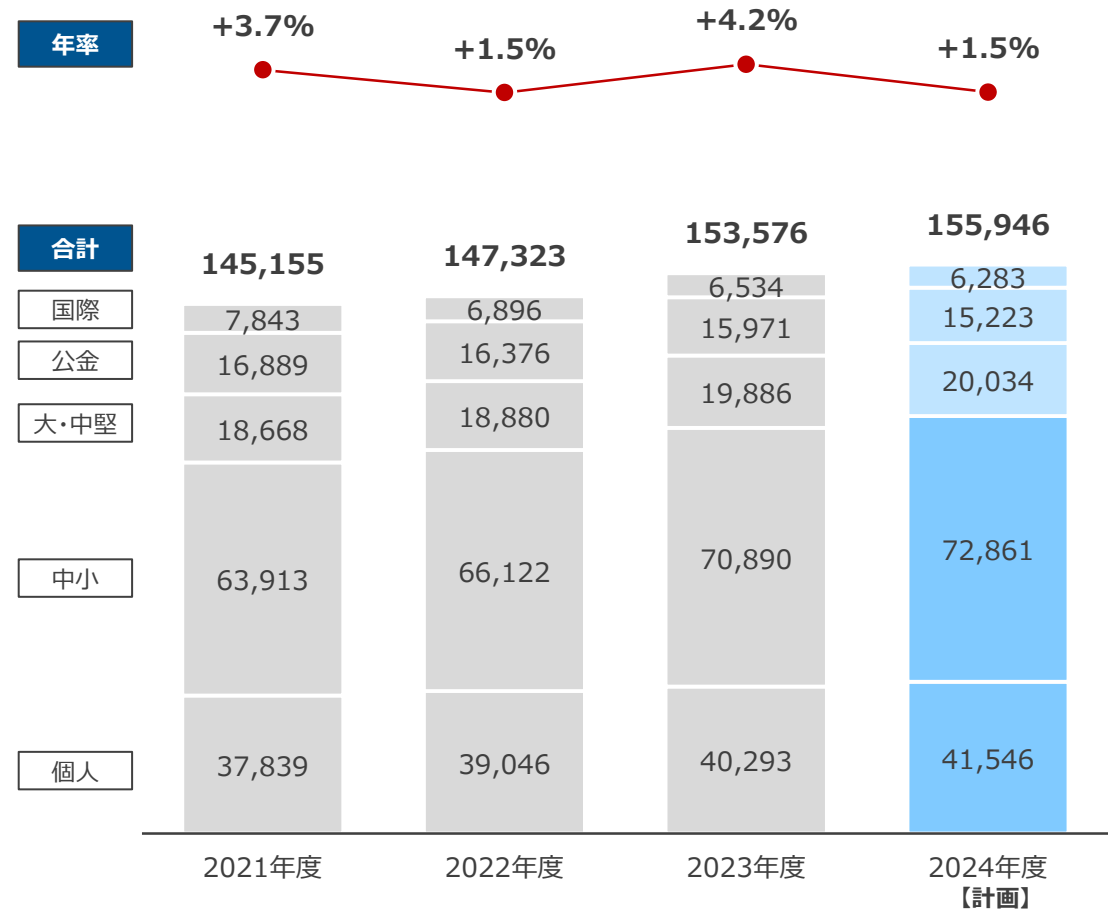
政府向け（公金）、福岡銀行のFFG向け貸出金（大中堅）を除く



セグメント別平残

(単位：億円)

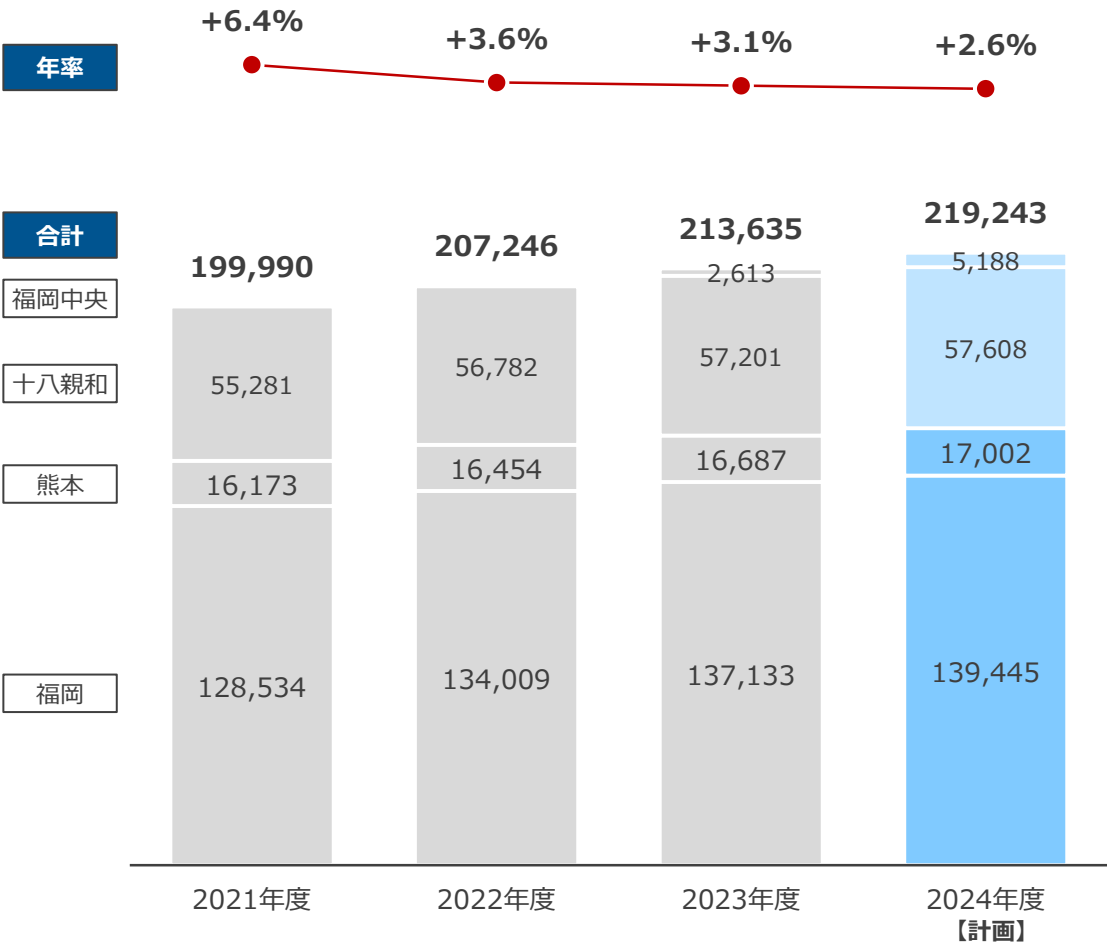
政府向け（公金）、福岡銀行のFFG向け貸出金（大中堅）を除く



預金等（譲渡性預金含む）

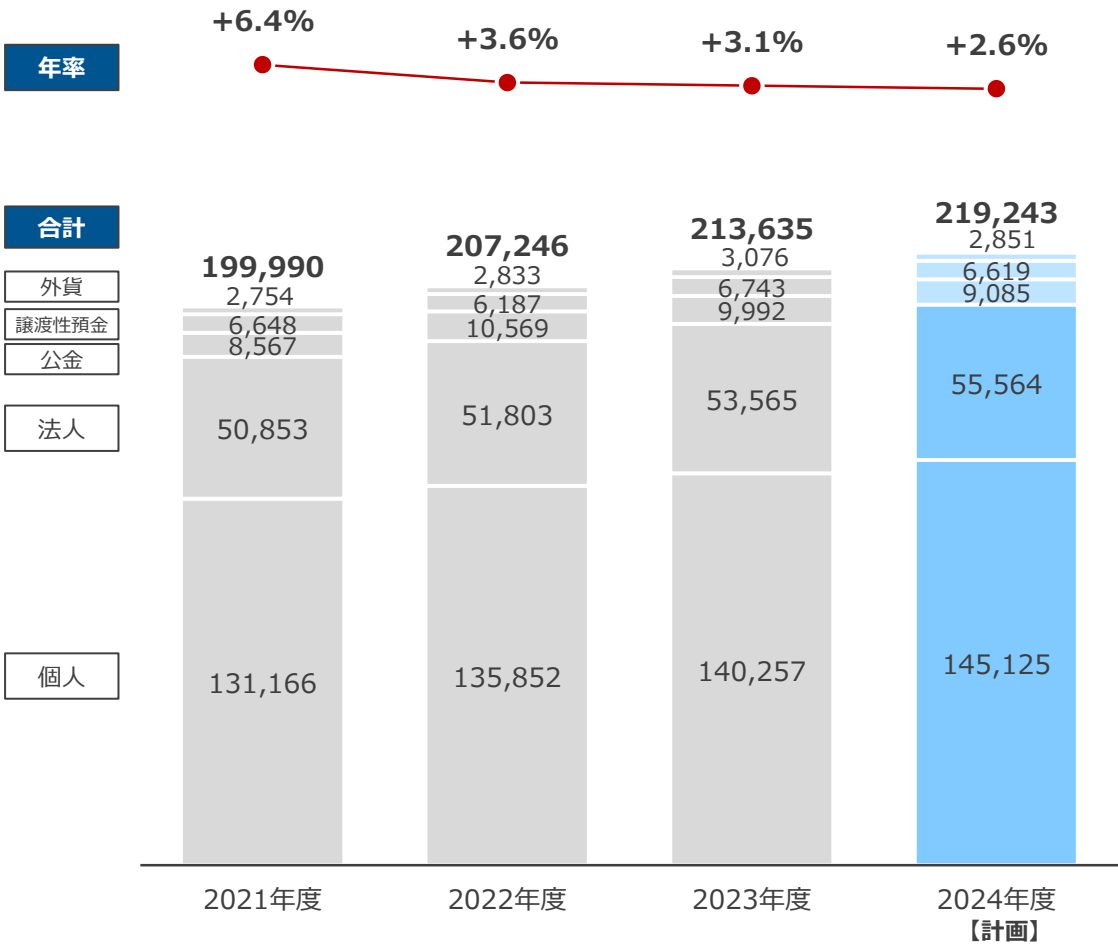
銀行別平残

(単位：億円)



セグメント別残高

(単位：億円)



預貸金の種類別構成比

〔国内〕貸出金残高（長短/感応金利別ポートフォリオ）

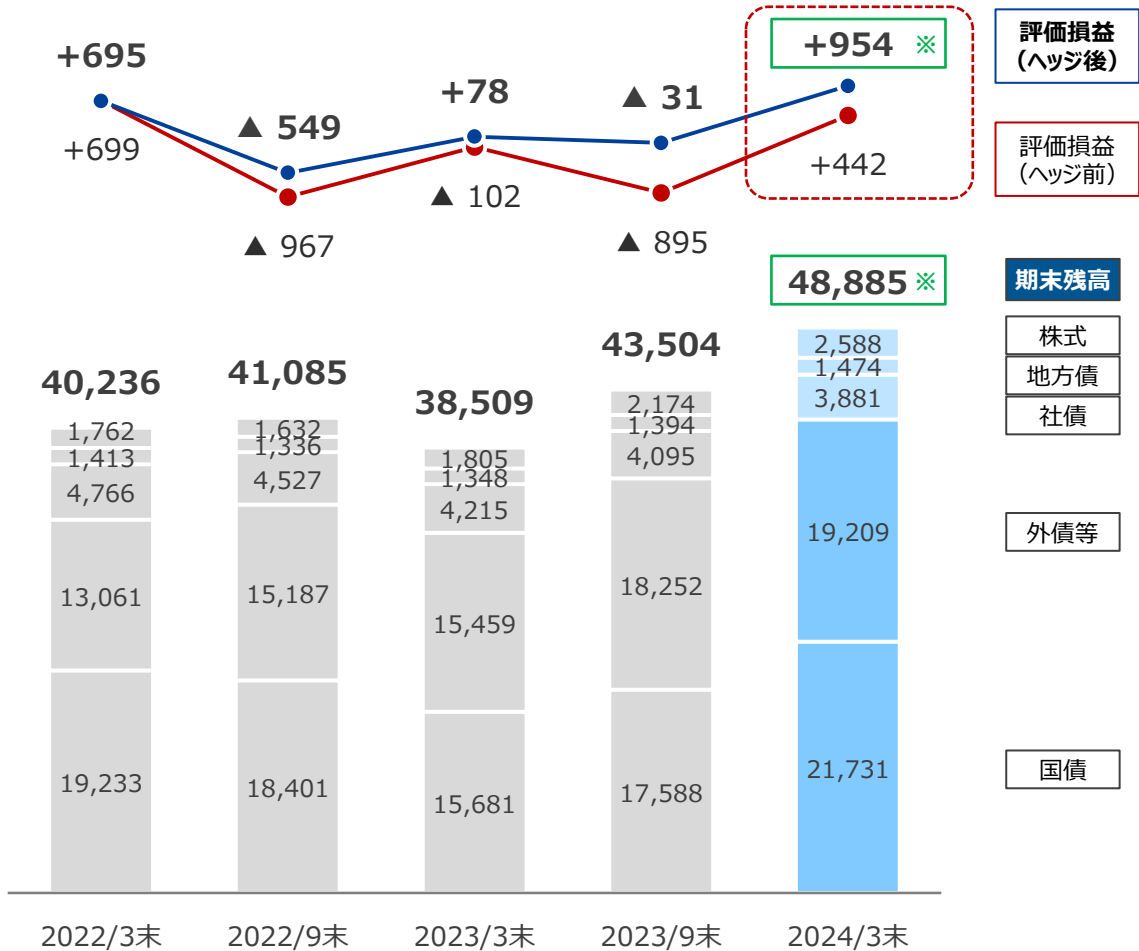
構成比（合計100%）		22/3末	22/9末	23/3末	23/9末	24/3末	前年度末比
銀行 合算	短期貸出金	24.9%	26.7%	28.5%	29.6%	27.8%	△ 0.7%
	長期貸出金	75.1%	73.3%	71.5%	70.4%	72.2%	+0.7%
	感 応 金 利 別						
	短期プライムレート	45.2%	46.8%	49.2%	50.7%	50.0%	+0.8%
	短期市場金利	13.9%	13.8%	12.8%	13.0%	14.2%	+1.4%
福岡 銀行	固定金利	40.8%	39.3%	38.1%	36.2%	35.7%	△ 2.4%
	短期貸出金	24.8%	22.6%	23.7%	23.4%	21.8%	△ 1.9%
	長期貸出金	75.2%	77.4%	76.3%	76.6%	78.2%	+1.9%
	感 応 金 利 別						
	短期プライムレート	43.6%	42.3%	44.2%	44.7%	44.4%	+0.2%
熊本 銀行	短期市場金利	16.7%	17.4%	16.3%	17.1%	18.7%	+2.4%
	固定金利	39.7%	40.3%	39.4%	38.2%	36.9%	△ 2.5%
	短期貸出金	33.0%	35.9%	37.3%	47.7%	47.0%	+9.7%
	長期貸出金	67.0%	64.1%	62.7%	52.3%	53.0%	△ 9.7%
	感 応 金 利 別						
十八 親 和 銀行	短期プライムレート	65.4%	66.9%	68.4%	74.1%	74.7%	+6.3%
	短期市場金利	3.3%	3.3%	3.4%	2.9%	3.2%	△ 0.2%
	固定金利	31.3%	29.9%	28.2%	23.1%	22.2%	△ 6.0%
	短期貸出金	20.7%	33.1%	36.8%	35.8%	34.4%	△ 2.4%
	長期貸出金	79.3%	66.9%	63.2%	64.2%	65.6%	+2.4%
福岡 中央 銀行	感 応 金 利 別						
	短期プライムレート	39.4%	49.5%	53.1%	53.6%	53.0%	△ 0.1%
	短期市場金利	10.7%	9.2%	7.8%	7.9%	9.9%	+2.1%
	固定金利	49.8%	41.3%	39.1%	38.5%	37.2%	△ 1.9%
	短期貸出金	-	-	-	-	12.9%	-
福岡 中央 銀行	長期貸出金	-	-	-	-	87.1%	-
	感 応 金 利 別						
	短期プライムレート	-	-	-	-	29.6%	-
	短期市場金利	-	-	-	-	1.5%	-
	固定金利	-	-	-	-	68.9%	-

〔国内〕預金等残高（流動/固定別ポートフォリオ）

構成比（合計100%）		22/3末	22/9末	23/3末	23/9末	24/3末	前年度末比
銀行 合算	流動性預金	73.7%	73.0%	74.9%	74.2%	76.3%	+1.4%
	うち無利息	12.9%	12.2%	12.9%	11.9%	12.6%	△ 0.3%
	定期性預金	24.1%	23.9%	22.9%	22.4%	22.0%	△ 0.9%
	うちコア預金	17.5%	17.0%	16.4%	15.8%	15.8%	△ 0.6%
	譲渡性預金（NCD）	2.2%	3.1%	2.3%	3.4%	1.6%	△ 0.7%
福岡 銀行	流動性預金	75.0%	74.7%	76.3%	75.1%	78.1%	+1.8%
	うち無利息	13.7%	13.1%	13.7%	12.2%	13.3%	△ 0.4%
	定期性預金	22.6%	22.4%	21.4%	21.0%	20.0%	△ 1.4%
	うちコア預金	17.2%	16.7%	16.0%	15.5%	14.9%	△ 1.1%
	譲渡性預金（NCD）	2.4%	2.9%	2.3%	3.8%	1.9%	△ 0.4%
熊本 銀行	流動性預金	68.0%	68.3%	70.1%	70.7%	72.5%	+2.4%
	うち無利息	6.5%	6.6%	6.5%	6.3%	6.5%	△ 0.0%
	定期性預金	32.0%	31.7%	29.8%	29.2%	27.4%	△ 2.4%
	うちコア預金	25.7%	24.4%	23.7%	22.3%	21.5%	△ 2.2%
	譲渡性預金（NCD）	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	△ 0.0%
十八 親 和 銀行	流動性預金	72.3%	70.6%	72.9%	73.0%	75.7%	+2.8%
	うち無利息	12.7%	11.7%	12.8%	12.6%	13.3%	+0.5%
	定期性預金	25.3%	25.1%	24.2%	23.7%	22.8%	△ 1.4%
	うちコア預金	16.0%	15.6%	15.0%	14.5%	14.1%	△ 0.9%
	譲渡性預金（NCD）	2.4%	4.3%	2.9%	3.4%	1.5%	△ 1.4%
福岡 中央 銀行	流動性預金	-	-	-	-	48.0%	-
	うち無利息	-	-	-	-	7.3%	-
	定期性預金	-	-	-	-	52.0%	-
	うちコア預金	-	-	-	-	44.3%	-
	譲渡性預金（NCD）	-	-	-	-	0.0%	-

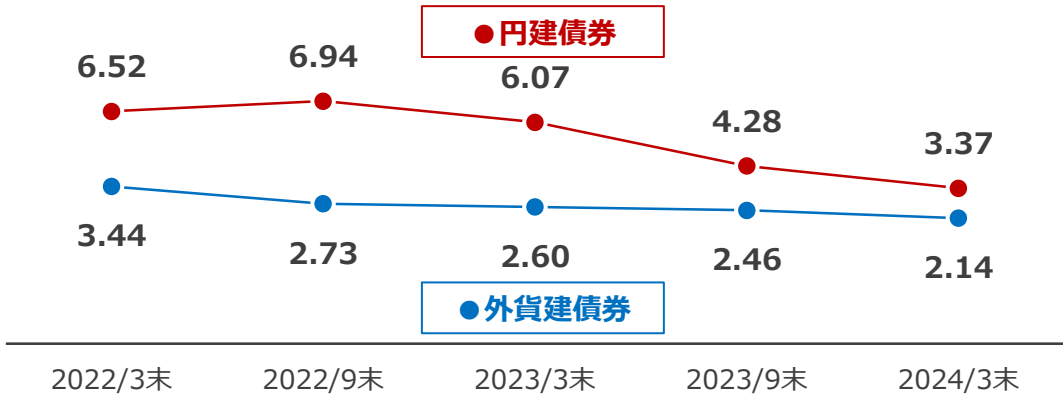
有価証券

期末残高・評価損益（FFG連結）
(単位：億円)

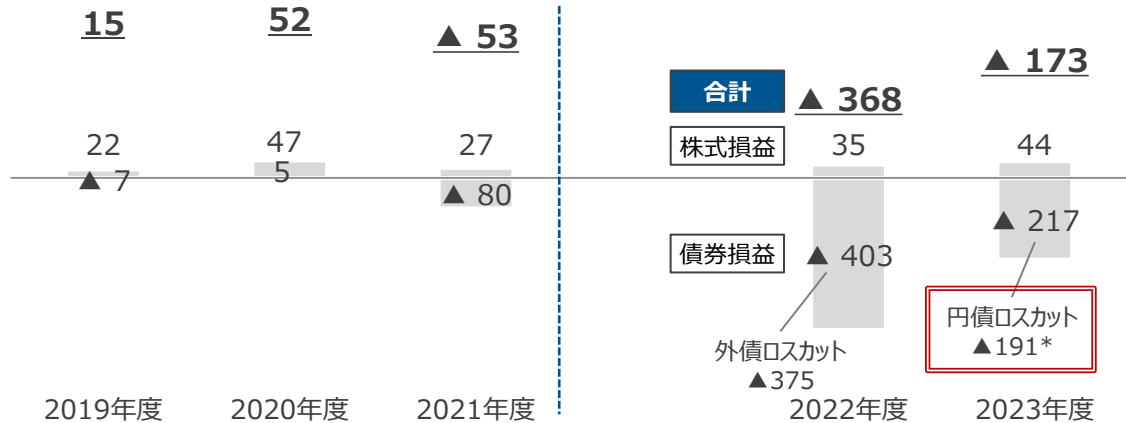


債券デュレーション（銀行合算）
(単位：年)

ヘッジ考慮後、満期保有目的の有価証券を含む



有価証券関係損益（FFG連結）
(単位：億円)



※うち福岡中央銀行〔FFG連結ベース〕2024/3末残高：1,381億円 評価損益：+16億円の含み益

*福岡銀行▲171、熊本銀行▲9、十八親和銀行▲10

みんなの銀行関連

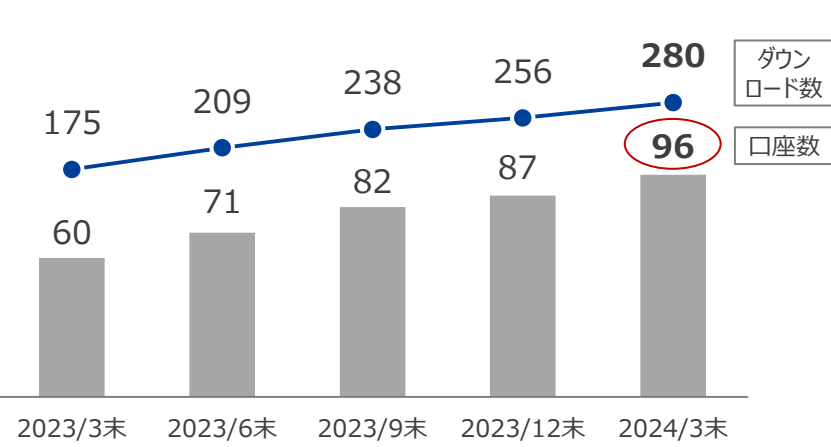
みんなの銀行

損益サマリー（みんなの銀行関連※）（単位：億円）

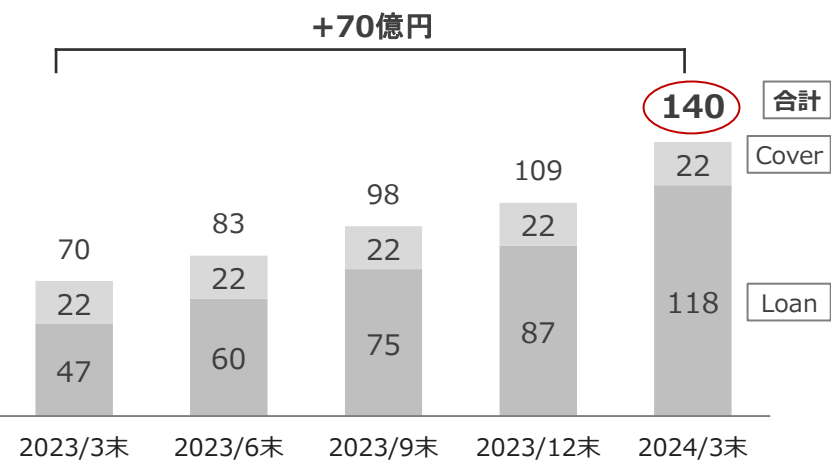
2023年度 実績	2023年度 実績	前年比	2022年度 実績
業務粗利益	10	+9	1
資金利益	9	+7	2
うち貸出金利息	10	+8	2
非資金利益(除く債券損益)	1	+2	▲ 1
経費 (△)	117	+17	100
コア業務純益	▲ 107	▲ 8	▲ 100
経常利益	▲ 124	▲ 21	▲ 103
特別損益	—	+45	▲ 45
当期純利益	▲ 93	+19	▲ 112
信用コスト (△)	15	+11	4

2024年度 業績予想	2024年度 予想	前年比	2023年度 実績
当期純利益	▲ 95	▲ 2	▲ 93
信用コスト (△)	16	+2	15

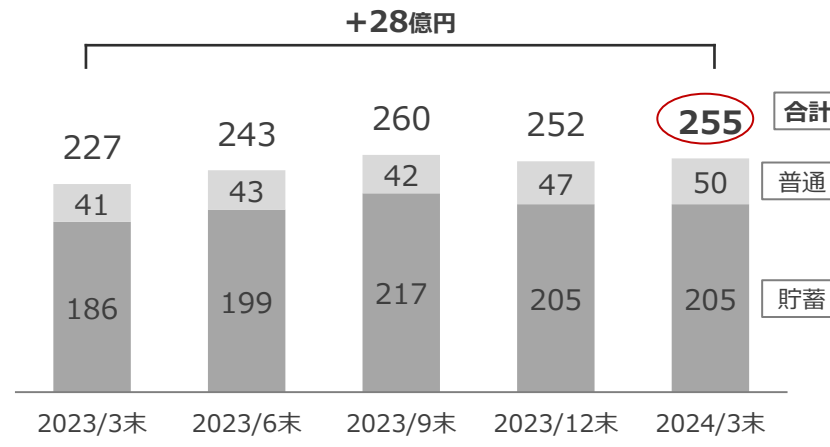
ダウンロード数と口座数（単位：万件）



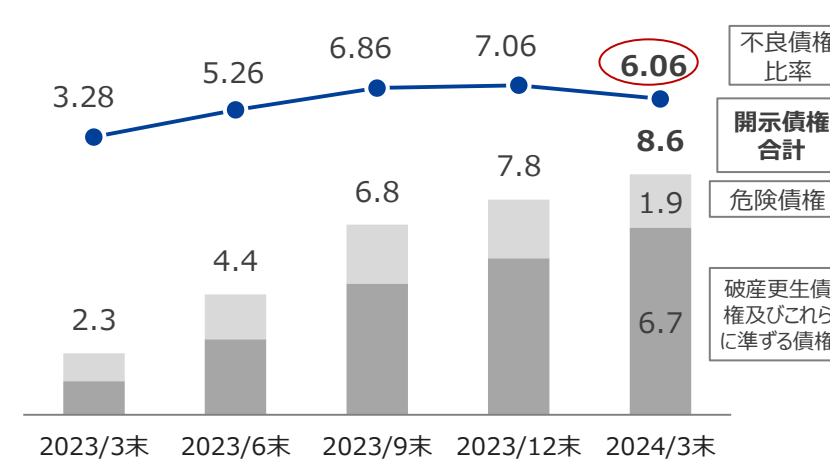
貸出金残高（単位：億円）



預金残高（別段預金を除く）（単位：億円）



金融再生法開示債権（単位：億円、%）



（※）みんなの銀行及びゼロバンク・デザインファクトリーの合算（両社の内部取引相殺後）

あなたのいちばんに。



ふくおかフィナンシャルグループ

Part III トピックス

持続可能な地域社会への貢献/人財戦略

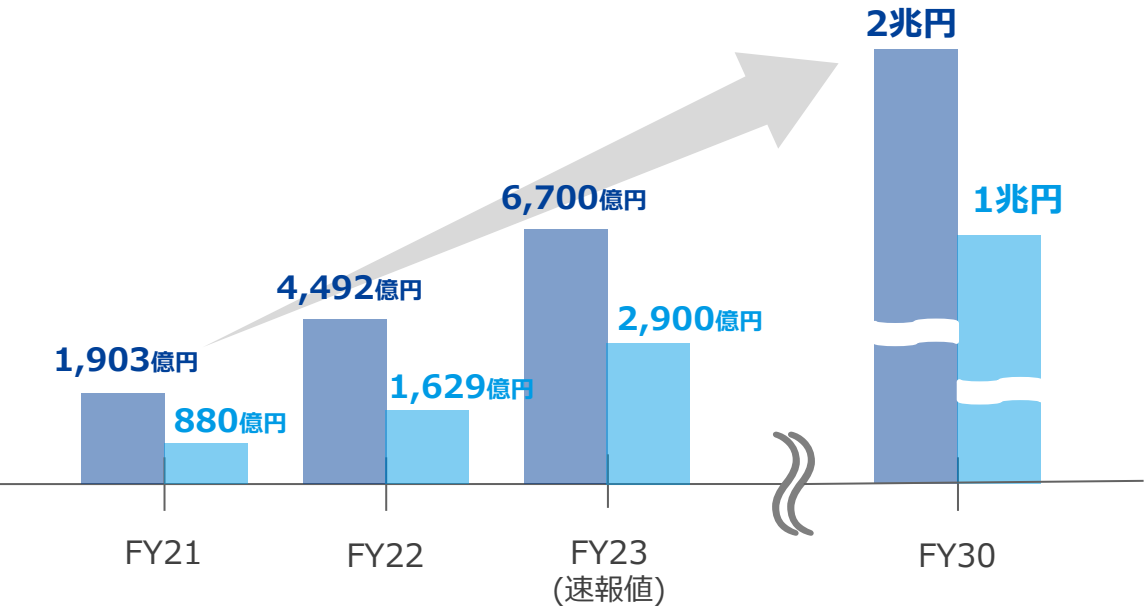
(参考資料)

持続可能な地域社会への貢献_お客さまのSX支援

サステナブルファイナンス実績

サステナブルファイナンス目標

2020年度～2030年度
累積実行額 **2兆円(うち、環境1兆円)**



対象となるファイナンス

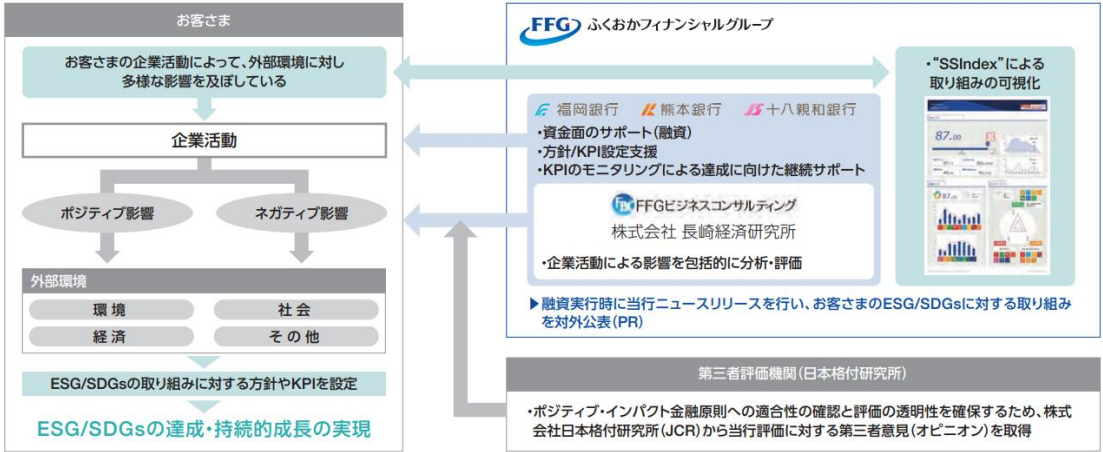
- ・ 気候変動対応など環境・社会課題解決に資するファイナンス
- ・ お客さまのESG・SDGs対応を支援・促進するファイナンス

Sustainable Scale Index

- 約200項目の評価項目に回答することで、自社のESG/SDGsへの取組みを指標化・見える化。業種別に評価されるため、業界平均と自社の数値を比較することで、立ち位置を把握することが可能
- 本サービスの評価書を基に、お客さまとの対話機会を増やし、ESG/SDGsの切り口から、地域のお客さまの持続成長に向けた支援に繋げていく

〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス

- Sustainable Scale Indexによる取組みの可視化や対話をもとに、お客さまの企業活動が環境・社会・経済に与えるポジティブならびにネガティブな影響(インパクト)を分析・特定し、KPIを設定
- お客さまの持続的な成長につなげるよう、中長期的な伴走支援を行う融資商品
- 2023年7月に福岡銀行で取り扱いを開始。2024年3月末時点で、**福岡銀行・熊本銀行・十八親和銀行合算で13件 47.5億円**を実行



持続可能な地域社会への貢献_FFGのSX実現

CO2排出量(Scope1,2)

➤ 自社CO2排出量(Scope1,2)削減目標「2030年度までにネットゼロ」達成に向け各種施策を実施

(単位：t-CO2)	FY13	FY21	FY22	FY23※	FY30
Scope1	4,447	2,862	2,834	3,000	-
Scope2	37,484	21,986	21,762	26,000	-
Scope1,2	41,931	24,848	24,596	29,000	ネットゼロ

※概算値。2023年度から福岡中央銀行の排出量を合算

■環境配慮型店舗

- 店舗の建替え検討時において、ZEB※設計の店舗へシフトすることを積極的に検討
- ZEB設計の建物は電気使用量を大幅に削減することができるため、CO2排出量削減に繋がる
- ※ Net Zero Energy Building：快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物



熊本銀行合志ローンセンター



十八親和銀行波佐見支店



福岡銀行南小倉支店

シナリオ分析

➤ 気候変動リスクがFFGに及ぼす影響を把握し、戦略レジリエンスを確立するため、シナリオ分析を実施。今後、分析結果を取引先とのエンゲージメントに活用

	物理的リスク	移行リスク
対象 ポート フォリオ	・ 国内事業性貸出先	・ ユーティリティおよびエネルギーセクター(*1) ・ 自動車セクター ・ 鉄鋼セクター
シナリオ	・ IPCC報告書におけるRCP 8.5 (4℃シナリオ) およびRCP 2.6 (2℃シナリオ)	・ NGFSによるNet Zero 2050 (1.5℃シナリオ) およびCurrent Policies (3℃シナリオ)
分析結果	・ 2050年までに発生し得る追加信用コスト 最大50億円	・ 2050年までに発生し得る追加信用コスト 累計236～479億円

(*1)水道事業者・再生可能エネルギー発電事業者を除く

外部機関による評価



持続可能な地域社会への貢献_金融経済教育

金融経済教育

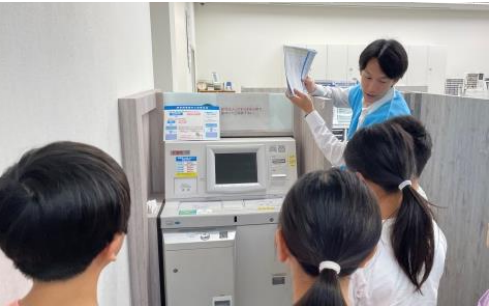
■ 金融経済教育の長期KPI実績

	FY20～FY23	～FY30 目標
金融経済教育受講者数※	8.2万人	10万人

※受講者数＝当社グループの実施する各種金融セミナーや職場体験、出張授業などの金融教育受講者の2020年度から2030年度までの総合計人数

■ 職場体験の受け入れと、学校での金融講座

- 全国と比較して低位で推移している九州エリアの金融リテラシー向上に貢献すべく積極的な取組みを展開
- その取り組みの一つとして、自治体や学校と連携して、FFG本社および子銀行本支店への職場体験受入れや近隣学校へ出張授業を実施。金融の仕組み・資産形成にまつわるテーマなどを学ぶ機会を提供



人生100年時代の資産形成サポート

■ SNSでの積極的な発信

- YouTube等のSNSでの発信を通じて、人生100年時代の資産形成サポート

〈マーケット入門〉

- チーフストラテジスト佐々木融による、マーケットの基本解説動画を配信。



〈お金の豆知識〉

- お金に関する豆知識を中心に、視聴者の「ちょっと気になる」を解決する動画を配信



FFG公式YouTubeチャンネル : <https://www.youtube.com/@ffg6528>

人財戦略_戦略的人財ポートフォリオ構築・従業員エンゲージメント向上

戦略的人財ポートフォリオ構築

多様な人材の採用

- ・ 部門別の新卒採用（投資銀行部門等）
- ・ キャリア採用の強化（デジタル部門等）

戦略を実現する 人財育成

- ・ ソリューション人財育成プログラム（FY23・48名）
- ・ 研修・自己啓発関連費用
FY22：2.8億円 FY23：3.9億円

最適かつ柔軟な 人財配置

- ・ キャリアチャレンジ制度（FY23・応募263名）
- ・ スペシャリストコース（24/4時点：20名）
- ・ エリア・ユニット制 ※ 地域ごとの特性に応じた柔軟な人財配置

従業員エンゲージメント向上

FFGへの共感

- ・ ブランドブックの配布
- ・ 営業店フォーラム / 本部フォーラム
➢ 経営陣による企業価値創造ストーリーの発信

処遇・仕事内容への 満足

- ・ ベアの実施/初任給の引き上げ
- ・ キャリアチャレンジ制度
- ・ 1on1ミーティング

働き方の多様化

- ・ フレキシブル休職制度
- ・ ジョブリターン制度
- ・ 社内兼業制度

新卒採用の部門別採用数

FY22 **18人** FY23 **21人**

キャリア採用数

FY22 **100人** FY23 **122人**

デジタル人財数

FY22 **448人** ➡ FY23 **503人**

顧客本位の投信販売

福岡銀行
1ノッチ上昇 **「SS」評価**

エンゲージメントサーベイ

- 会社・仕事・職場・上司に対する「期待度」と「満足度」という観点から、従業員のエンゲージメントの測定を実施し、各種人事施策の効果を可視化
- 2022年度のスコア(59.0 A)のスコアを踏まえエンゲージメントサーベイ事業者である株式会社リンクアンドモチベーションが主催する「ベストモチベーションカンパニーアワード2024」にて大企業部門全国6位の表彰を受賞

スコア **59.1** レーティング **A** ※ 本サーベイを利用している約1万社の平均がスコア50
※ AAA～DDのランクで上から3つ目のランク



人財戦略_DE&I・組織風土

DE&I推進

各種両立支援 (育児・介護×仕事)

- ・ 産前産後休暇・育児休業、介護休業
- ・ 復職支援プログラム
- ・ 企業内保育所設置

女性のキャリア形成

- ・ 女性を対象とした各種研修、勉強会
- ・ 外部研修への派遣
- ・ 役員によるメンター制度

DE&Iに関する 理解促進

- ・ マネジメント研修
- ・ 社員向け各種セミナー・研修開催
介護・LGBTQ+・アンコンシャスバイアス 等

多様な背景を持つ役職者比率

FY23 **24.7%** FY30 目標 **35%以上**

えるぼし認定(女性活躍推進企業認定)



「3段階目」認定
・福岡銀行
・熊本銀行
・十八親和銀行

役職者に占める女性比率

FY23 **18.7%** FY28 目標 **25.0%**

くるみん認定(子育てサポート企業認定)



「くるみんプラス」認定
・福岡銀行

「くるみん」認定
・十八親和銀行
・福岡中央銀行

心理的安全性が確保された組織風土の醸成

- 持続的な成長に向けて、多様なバックグラウンドを有する個々人が、自由闊達に意見が言える「心理的安全性」の確保された組織風土を醸成していく
- 従業員が、上司・部下、部署などの立場に関係なく、率直に意見を言うことができれば、リスク管理の強化や不祥事等の予防・早期発見に加え、新たなビジネス機会の創出や働きがいの向上にも繋がる

KataRi-Ba

- ・ さまざまな人が交流し、新たな発想を生む環境を目指し、本社ビル8階に共創フロアを設置

社内SNS

- ・ 社内連携強化・働きがいやモチベーション向上を企図し、誰もが自由に発信できるデジタル環境を構築

営業店サポーター

- ・ 本部従業員が営業店を訪問し、DXに関する各種施策の推進をサポートする取組み

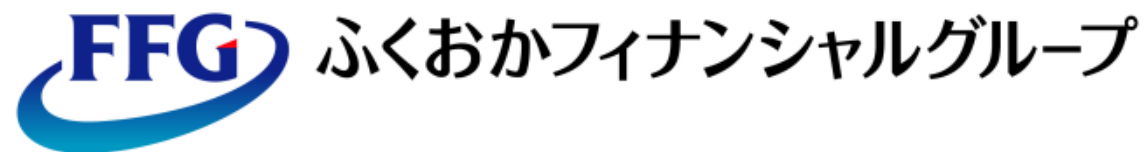
コミュニケーション 活性化施策

- ・ コロナ禍で少なくなっていたインナーコミュニケーションを活性化させるため、社内イベントの費用を補助

第三者評価

- ・ 平時の健康診断の位置づけで、心理的安全性の実態把握・課題の洗い出しを目的として、外部法律事務所による評価・検証を実施

あなたのいちばんに。



- 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載されている事項の全部または一部は予告なく修正または変更されることがあります。
- 本資料に記載された将来の業績に関する記述につきましては、経営環境の変化等に伴い、予想あるいは目標対比変化し得ることにご留意ください。
- なお、本資料の全部又は一部を当社の承諾なしに転写・複製し、又は第三者に伝達することはできませんのでご注意ください。

〈本資料に関する問い合わせ先〉

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 経営企画部 ブランド統括グループ

TEL : 092-723-2255 E-Mail : ffg-ir@fukuoka-fg.com